

## 第4章 滝遺跡第25地点の本調査

### I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250 m、東西500 m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡(1981年の変更増補で滝遺跡と合併)で古墳時代前期と後期の住居跡を検

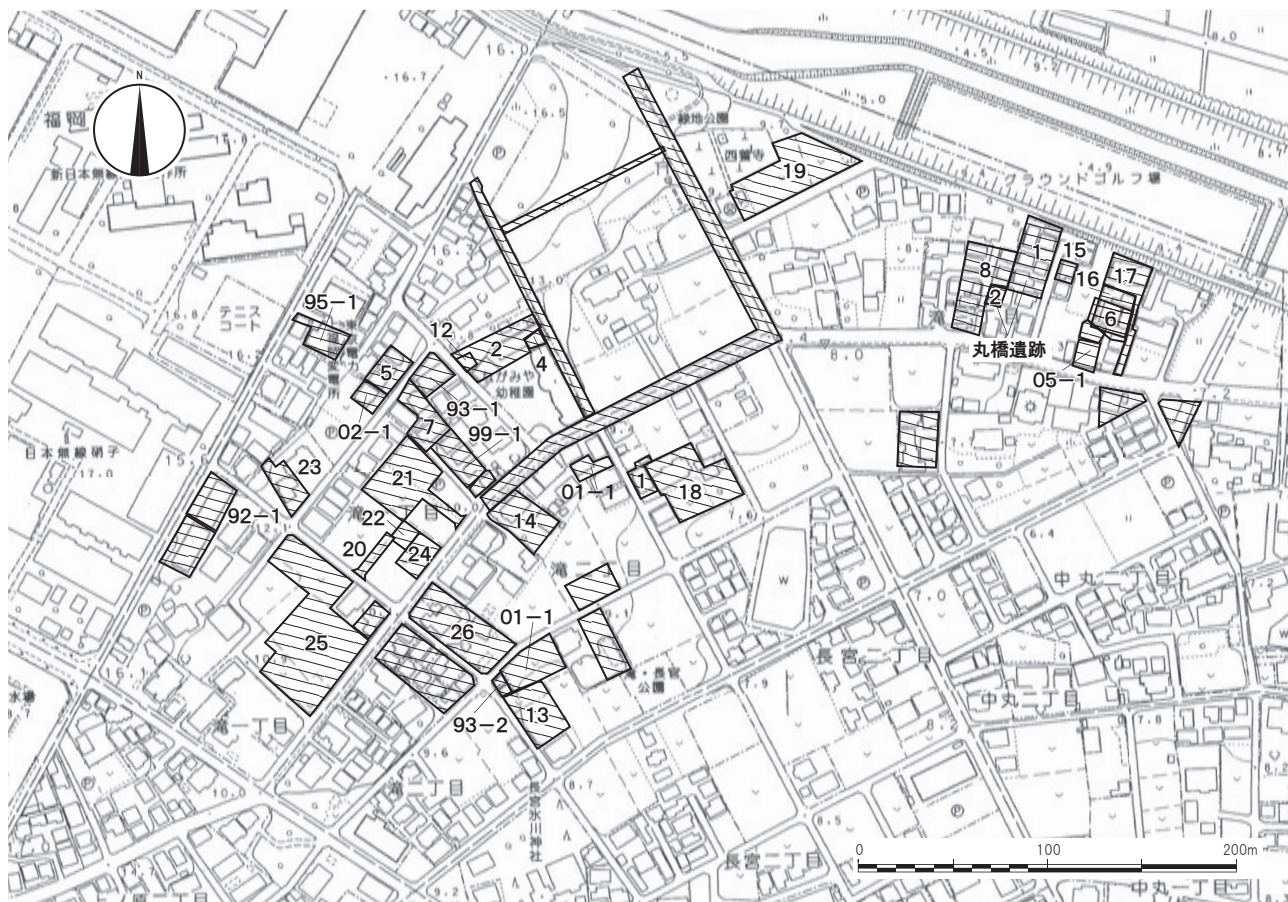
出以来40ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査(1)は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構(集石を伴う)である。

### II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2014年6月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2014年7月18日から8月26日まで行った。幅約1.5 mのトレンチ18本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、古代の住居跡の他、井戸、土坑、ピット等、多数の遺構



第23図 滝遺跡の地形と調査区(1/4,000)

を確認した。

地表面から遺構確認面までの深さは 60 ～ 120 cm であり、道路築造部分では遺跡への影響が避けられないため原因者と再度協議の結果、本調査を実施した。また、住宅建設部分については、各建主と建設計画が決定してから、発掘届および事前協議書を各自に提出してもらい、調査実施の有無を判断することとした。

本調査は 9 月 8 日から 10 月 31 日まで行い、古代住居跡 8 軒、掘建柱建物跡 1 棟、土坑 2 基、井戸 4 基、ピット 23 基、溝 2 本を検出、須恵器、土師器等が出土した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

本調査は調査区内に 4 m の方眼を設定し、北から南に A ～ C、東から西に 1 ～ 4 の番号を付し、A 1 区・B 1 区～とした。

Ⅲ 遺構と遺物

① H 34 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南端に位置する。出土遺物から 7 世紀中頃とみられる。

【形状・規模・掘方】平面形態は幅 100 ～ 130 cm の

調査のため、全容は不明である。平面形態は方形か長方形とみられる。

竈を主軸とする住居跡の規模は、長軸（主軸）、短軸ともに 420 cm 以上で、深さ 55 cm である。住居跡の掘方は、壁際を深く掘り窪めた後、ロームブロック・粒を多く含む黒褐色土で貼床を行う。貼床の下から楕円形と方形のピット 3 基（P4 ～ 6）を検出したが、柱穴ではない。

【ピット】床面で検出したピット（以下 P）は 3 基（P1 ～ 3）である。P1 は楕円形で、確認面径 52 × 30 cm、底径 12 × 8 cm、深さ 24.5 cm である。P2 は楕円形で、確認面径 48 × 31 cm、底径 28 × 20 cm、深さ 30.3 cm である。P3 は一部を検出したのみで、全容は不明である。確認面径 52 cm 以上、底径 32 cm 以上、深さ 27.2 cm である。P4 は不整形で、確認面径 52 × 50 cm、底径 16 × 12 cm、深さ 38.8 cm である。P5 は楕円形で、確認面径 26 × 20 cm、底径 19 × 13 cm、深さ 32.3 cm である。P6 は方形で、確認面径 26 × 24 cm、底径 19 × 18 cm、深さ 28.9 cm である。

【竈】竈は住居跡東壁に位置する。残存状況は良好で、

第 8 表 滝遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書	備考
丸橋1次	滝3-3-77～81	(1976.6.26-27) 1976.7.24～8.12	543	建売住宅	古墳前期住居跡1・後期住居跡1	上福岡市遺跡調査報告書	丸橋遺跡は滝遺跡へ統合
丸橋2次	滝3-3-13	1978.7.26～8.6	210	住宅建設	古墳前期土坑1、現代溝1	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)	
1次	滝2-6-11	1978.10.2～13	129	住宅建設	住居跡1、土師器	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)	
2次	滝1-4-2	1979.4.15～5.7	278	幼稚園プール	住居跡5、周溝、土坑、長甕、土器	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	
3次	滝1-4-15	1980.6.27～7.3	76	住宅建設	権現山遺跡1地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	権現山遺跡へ変更
4次	滝1-4-15	1980.7.7～12	105	住宅建設	遺構なし、平安土師器片	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	
5次	滝1-3-21	1980.7.20～31	330	住宅建設	権現山遺跡2地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	権現山遺跡へ変更
6次	滝3-3-6	1980.11.20～12.2	166	住宅建設	縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土器他	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	
7次	滝1-1-19	1981.7.30～31	400	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(Ⅳ)	
8次	滝3-3-15他	1983.11.14～26	990	住宅建設	古墳住居跡2	埋蔵文化財の調査(Ⅵ)	
9次	滝1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	権現山遺跡5地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
10次	滝1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	権現山遺跡6地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
11次	滝1-4-2	1984.6.28～30	33.12	物置建設	権現山遺跡7地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
12次	滝1-4-2	1984.12.22～24	94	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	
92試(1)	滝1-2-14の一部	(1992.7.6～8)	400	倉庫建設	なし	埋蔵文化財の調査(15)	
93試(1)	滝1-1-4	(1993.4.23～28)	313.08	共同住宅	なし	埋蔵文化財の調査(16)	
93試(2)	滝2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(16)	
95試(1)	滝1-3-13	(1995.11.27～30)	462	共同住宅	権現山遺跡14地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(18)	
99試(1)	滝1-1-6	(1999.10.21～26)	511.09	宅地造成(土地分譲)	なし	埋蔵文化財の調査(22)	
00試(1)	滝1-5-20	(2001.1.23～24)	154.7	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(23)	
01試(1)	滝2-2-8	(2001.4.17～20)	519.64	共同住宅	奈良初頭住居跡1	埋蔵文化財の調査(24)	
02試(1)	滝1-3-49	(2002.5.29～30)	165	個人住宅	権現山遺跡17地点に変更、欠番とする。	埋蔵文化財の調査(25)	
05試(1)	滝3-3-5・3-143	(2005.6.24～27)	350	個人住宅	なし	市内遺跡群1	
立会	滝1-4-1・26・27	(2006.4.15)	2,492	幼稚園	なし		
12	滝2-5-3の一部、5・4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	なし	市内遺跡群3	
13	滝2-2-6	2007.10.24～11.1	737.7	共同住宅	焼土範囲2箇所、ピット8	市内遺跡群4	
14	滝2-5-11・17	(2007.11.8～19) 2007.11.20～12.6	692	分譲住宅	住居跡7軒、溝3条、井戸1基、須恵器、土師器	市内遺跡群4	
15	滝3-3-84	(2009.9.2～14) 2009.10.23～11.6	100	分譲住宅	8世紀住居跡1軒、井戸1、土坑8、ピット20、須恵器、土師器、紡錘車	市内遺跡群7	
16	滝3-145	(2009.12.2～14)	434	宅地造成	ピット3	市内遺跡群8	
17	滝3-3-6、3-144	(2010.5.6～6.18)	331	分譲住宅	奈良平安時代住居跡5軒、井戸1、土坑4、溝2、集石	市内遺跡群10	
18	滝2-6-4、6-6	(2011.6.6～13) 2011.6.14～7.14	1164	個人住宅	古墳時代住居跡2軒他、土師器、近世陶磁器等	市内遺跡群14	
19	滝3-4-2	(2011.10.17～24)	1,277.16	分譲住宅	溝2、陶磁器等	市内遺跡群14	
20	滝1-8、1-9	(2012.5.9～11)	124.45	道路築造	住居跡1軒、時期不明井戸、土坑、ピット	市内遺跡群12	
21	滝1-1-7、1-26、1-31	(2012.5.11～21) 2012.7.17～8.25	1,176.25	共同住宅	奈良平安時代鍛冶炉付住居跡1軒（H31）・奈良平安時代住居跡2軒（H32・H33）、掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑、ピット、須恵器、土師器、鍛冶関連遺物他	市内遺跡群12	
22	滝1-1-40	(2013.7.30)	114	個人住宅	なし	未報告	
23	滝1-3-5の一部	(2014.2.12)	371	個人住宅	なし	未報告	
24	滝1-1-8の一部	(2014.7.16～18)	222.8	分譲住宅	奈良平安時代と見られる土坑2、ピット2	未報告	
25	滝1-2-4・32	(2014.7.17～8.26) 2014.9.8～10.31	2,804	宅地造成	8世紀住居跡4、井戸4、土坑3、溝2、ピット多数	未報告	

※理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書





第24図 淹遺跡遺構分布図(1/2,000)

袖部の先端が崩れている以外は、天井部も残存する。住居跡の壁を掘り込んだ後、灰色粘土で竈を構築する。

竈の長軸 156 cm、袖部の最大幅 132 cmである。竈内部は幅 68 cm、奥行き 60 cmで床面からの深さは 24.3 cmである。煙道部は住居の壁を奥行き 100 cm、幅 130 cm掘り込む。煙道内部は 30 ～ 40 cm、高さ 19 ～ 35 cmである。燃烧部から煙道にかけては、約 21 度から 79 度の角度で、段階的に急角度で立ち上がる。

【周溝】竈部分以外の東壁と南壁で検出する。上幅 10 ～ 25 cm、下幅 4 ～ 8 cm、深さ 10 ～ 22.3 cmである。

【遺物出土状況】住居跡全体の床面から覆土層にかけて比較的多く出土する。

②H 35 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の中央部北端に位置する。出土遺物から 8 世紀中～後半頃とみられる。

【形状・規模・掘方】平面形態はほぼ長方形を呈し、住居跡全体を検出した。南壁の外側に幅 20 ～ 25 cm、深さ 13.8 ～ 22 cmの一段高い掘り込みがある。また住居跡の東壁 (竈 2) と北壁 (竈 1) に竈を持ち、竈 2

が新しく、竈 1 が古い。以上の点から本住居跡は、別住居の重複または建て替えなどが考えられる。

東竈を主軸とする住居跡の規模は長軸 (主軸) 220 cm、短軸 360 cm、深さ 34.5 ～ 48.6 cmである。住居跡床面中央に硬化面がみられる。住居跡の掘方は、ドーナツ状に床面中央部が高く、壁際を掘り窪めた後、ロームブロック・粒を多く含む黒褐色土、暗褐色土で貼床を行う。貼床の下から平面形態がほぼ円形のピット 7 基 (P2 ～ 7) を検出したが、柱穴ではない。

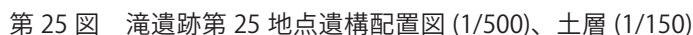
【ピット】床面で検出したピット (以下 P) は 1 基 (P1) である。P1 は確認面径 36 × 34 cm、底径 14 × 11 cm、深さ 14 cm。P2 は確認面径 43 × 38 cm、底径 9 × 8 cm、深さ 36.6 cm。P3 は確認面径 38 × 36 cm、底径 16 × 11 cm、深さ 10.2 cm。P4 は確認面径 42 × 32 cm、底径 8 × 7 cm、深さ 14.5 cm。P5 は確認面径 56 × 44 cm、底径 26 × 25 cm、深さ 1.3 cm。P6 は確認面径 59 × 46 cm、底径 44 × 25 cm、深さ 11.2 cm。P7 は確認面径 29 × 24 cm、底径 9 × 5 cmである。

【竈】竈 1 は住居跡東壁のやや南寄りに位置する。天井部は崩落しているが、両袖の一部と奥壁、燃烧面を検出した。袖部には構築部材の黄色粘土がみられる。

第9表 滝遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

新 住 居 番 号	旧 調 査 年 度	調査名	調査率	平面形 ( )は推定	規模 ( )は残存 又は推定値	炉	設置 壁・炉 位置	炉・カマド規模		周溝	主軸 方向	時期	備考	文献
						竈:K		長軸	幅					
1	1978	第1次1号住居	5/6	隅丸方形	640×(580)×40	炉	中央 西寄り	115	70	○	S-55-W	4世紀前半	4本主柱穴、方形貯蔵穴110×95×40	埋蔵文化財の調査Ⅰ
2	1979	第2次2号住居	ほぼ完掘	正方形	(460)×470×45	K	北	(100)	106	○	N-32-W	7世紀前半	焼失住居、方形貯蔵穴62×55×45	埋蔵文化財の調査Ⅱ
3	1978	丸橋第1次3号住居	2/3	正方形	(510×470)×15	K	北東	210	102	○	N-38-W	7世紀前半	焼失住居、(4本主柱穴)	上福岡市遺跡調査報告書
6		第2次3号住居	完掘	方形	(480×460)×15	—	—	—	—	○		9世紀前半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
4	1979	第2次4号住居	ほぼ完掘	長方形	南北340×東西380～ 415×30	K	北	160	110	○	N-14-W	8世紀前半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
5	1979	第2次5号住居	3/8	(正方形)	(490)×610×60	—	—	—	—	○	不明	8世紀前半	竈は調査区外未調査	埋蔵文化財の調査Ⅱ
—	1980	第3次5号住居	1/5	不明	(260×270)×30	—	—	—	—	○	不明	4世紀前半	権現山遺跡1号住居跡に変更	埋蔵文化財の調査Ⅲ
7	1980	第6次7号住居	1/3	正方形	620×(250)×12	K2基	A竈:北 B竈:西	115×90 122×90		○	N-52-E N-37-W	7世紀前半	建て替有り、不整形 貯蔵穴175×95×20、 床面焼土範囲有	埋蔵文化財の調査Ⅲ
8	2001	2001年度範囲確認 調査第15号住居跡	完掘	方形	400×400×	K	北	不明	不明	○	不明	(8世紀前半)	今後15号住居跡から8号 住居跡に名称変更	埋蔵文化財の調査24
9	1983	第8次9号住居	2/3	隅丸方形	(500)×470×20	炉3	中央北 西寄り	60×40、(35) ×32、40×32		○	—	4世紀前半	焼失住居、床面硬化範囲2ヶ所	埋蔵文化財の調査Ⅵ
10	1983	第8次10号住居	完掘	正方形	690×660×15	K	北東	215	125	○	N-52-E	6世紀前半	4本主柱穴、方形貯蔵穴(80)×75×35	埋蔵文化財の調査Ⅵ
11	1984	第10次11号住居	完掘	隅丸方形	445×(380)×35	K	北	115	95	○	N-5-W	6世紀前半	権現山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査Ⅶ
12	1978	丸橋第1次 12号住居	ほぼ完掘	隅丸長方形	980×770×20	土器 面炉	北部	140	100	○	N-54-W N-36-E	4世紀前半	床面焼土点在	市史史料編第1巻
13	2007	第14次13号住居	1/2	方形	370×370×45	K	東	90	65	○	N-36-E		貼床	市内遺跡群4
14	2007	第14次14号住居	4/5	(長方形)	385×(380)×202	K	北	171	82	○	真北	8世紀前半	比企型坏多数出土、貼床	市内遺跡群4
15	2007	第14次15号住居	1/3	不明	(370×—)×20	—	—	—	—	—	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
16	2007	第14次16号住居	1/4	不明	(250×170)×40	—	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
17	2007	第14次17号住居	1/3	不明	(344×360)×102	—	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
18	2008	第14次18号住居	1/5	不明	(297×270)×30	—	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
19	2008	第14次19号住居	1/5	不明	(450×—)×350	K	北	(85)	(82)	—		8世紀前半～	14号住居より新しい	市内遺跡群4
20	2009	H20号住居	2/3	隅丸長方形	370×350×398							8世紀		市内遺跡群7
21	2009	H21号住居	一部	不明	285×(135)×—	K	東							市内遺跡群8
22	2009	H22号住居	一部	不明	—									市内遺跡群8
23	2010	H23号住居	プラン	長方形	595×700×27	K	北				N-46-W	8世紀	H24、H25住居より新	市内遺跡群10
24	2010	H24号住居	プラン	(方形)	590×(265)×30							8世紀	H23、H26住居より古、H25住居より新。	市内遺跡群10
25	2010	H25号住居	プラン	長方形	810×700×12						N-46-W	7世紀	H23、H24住居より古	市内遺跡群10
26	2010	H26号住居	プラン	(方形)	450×(110)×40							8世紀	H24住居より新	市内遺跡群10
27	2010	H27号住居	プラン	方形	420×400×10									市内遺跡群10
28	2011	H28号住居	完掘	隅丸方形	660×630×18.2	炉		165	110		N-34-W	4世紀後半		市内遺跡群14
29	2011	H29号住居	1/2	(隅丸長方形)	290×648×18.2							4世紀後半		市内遺跡群14
30	2012	H30号住居	4/5	方形	410×390×5	K	東			○	N-75-E	9世紀		市内遺跡群12
31	2012	H31A号住居	完掘	方形	780×770×50	K	北・東	95	130	○	N-92-E	8世紀前半		市内遺跡群12
31	2012	H31B号住居	完掘	方形	640×640×50	K	北	135	170	○	N-2-E	8世紀前半	鍛冶炉	市内遺跡群12
32	2012	H32号住居	一部	(方形)	—×—×25								保存のため未調査	市内遺跡群12
33	2012	H33号住居	一部	(方形)	—		北				N-0-E		保存のため未調査	市内遺跡群12





竈残存部の長軸 119 cm、袖部の最大幅 111 cmである。竈内部は幅 42 cm、奥行き 80 cmで床面からの深さは 11.1 cmである。煙道部は住居の壁を奥行き 72 cm、幅 92 cm掘り込む。

竈2は住居跡北壁のやや東寄りに位置する。住居跡の壁を掘り込んだ煙道部のみが残存する。竈の壁には構築部材の明黄褐色粘土が僅かにみられる。竈残存部の長軸 78 cm、幅 75 cm、奥行き 79 cmで、床面からの高さは 15.1 cmである。

【周溝】竈部分以外は全周する。上幅 14 ~ 32 cm、下幅 5 ~ 19 cm、深さ 3 ~ 13 cmである。

【遺物出土状況】2基の竈内と竈周辺、住居跡南西隅の住居跡床面から集中して出土する。

### ③H 36号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北端に位置し、西側は調査区外に延びるため、未検出である。溝1と重複し、溝1が新しい。本住居跡の東約3mにH35号

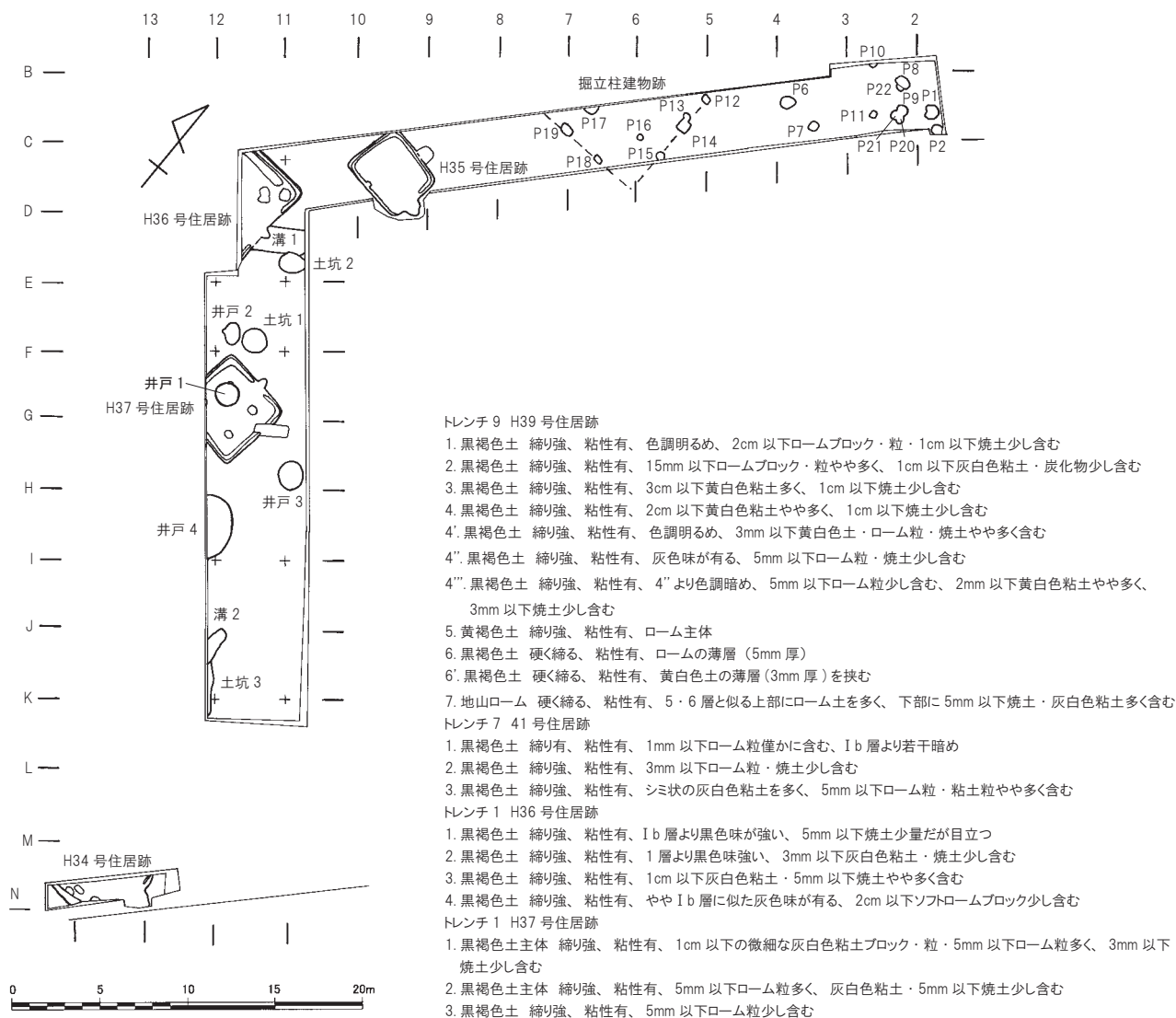
住居跡、南方約5mにH37号住居跡位置する。出土遺物から8世紀前半~中頃とみられる。

【形状・規模・掘方】平面形態は正方形か長方形とみられるが全容は不明である。規模は長軸(主軸)415 cm以上、短軸 535 cm以上、深さ 105 cmである。

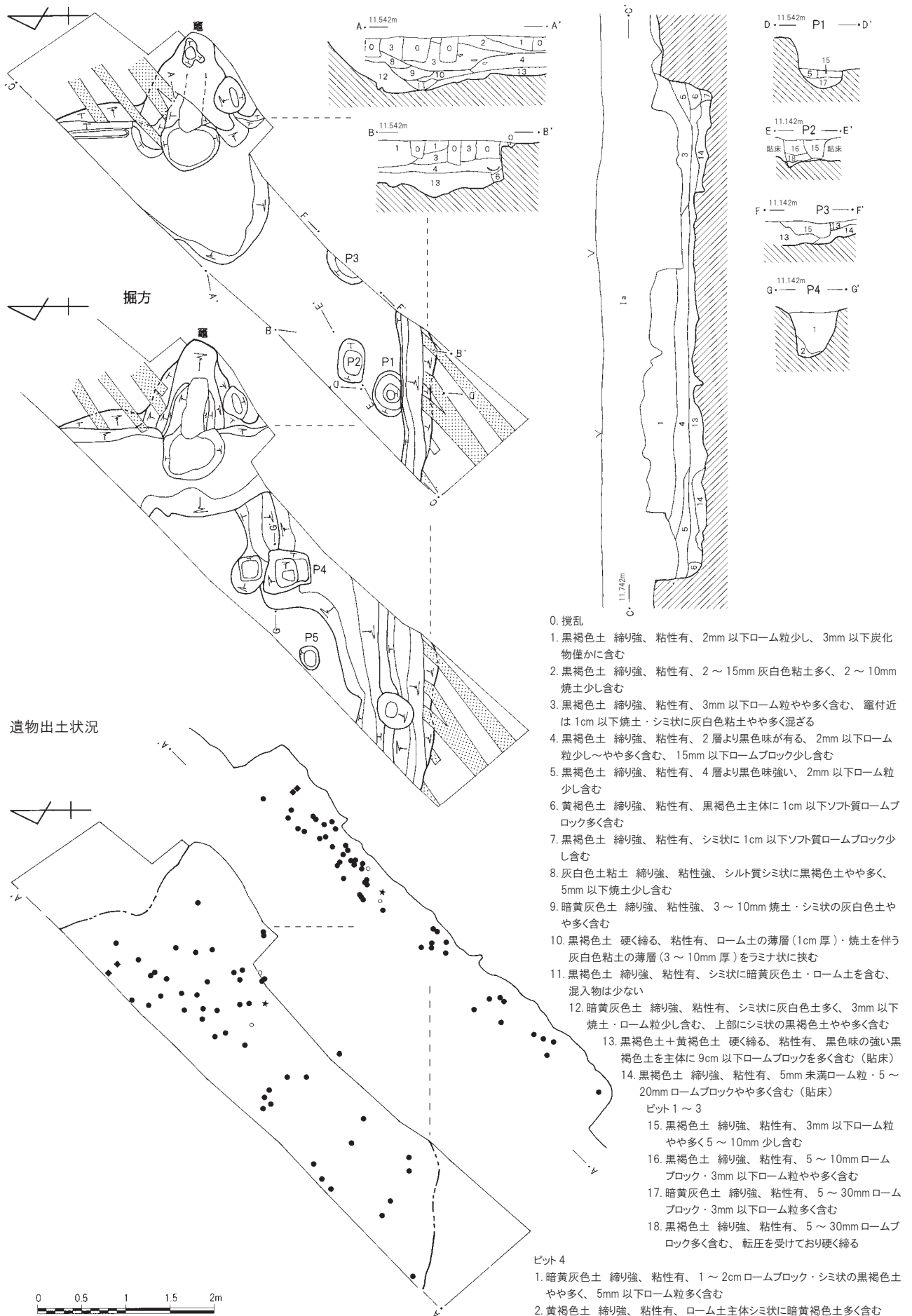
住居跡の掘方は、ドーナツ状に床面中央部が高く、壁際を深く掘り窪めた後に貼床を行う。貼床は、まずロームブロックを多く含む黄褐色土で平坦にした後、やや少ないロームブロックを含んだ黒色土で整地し、その上に厚さ 6 ~ 10 cmで灰色粘土層と黒色土層を8回ほど互層にする。

【ピット】床面で貯蔵穴とみられるピット1基(P1)と主柱穴1本(P2)を検出した。他の主柱穴は調査区外に位置するため未検出である。また、周溝内からP4 ~ 7を、床面(貼床)の下からP3を検出した。

ピット1の平面形態はほぼ円形で、規模は確認面径 70 × 60 cm、底径 66 × 40 cm、深さ 36 cmである。

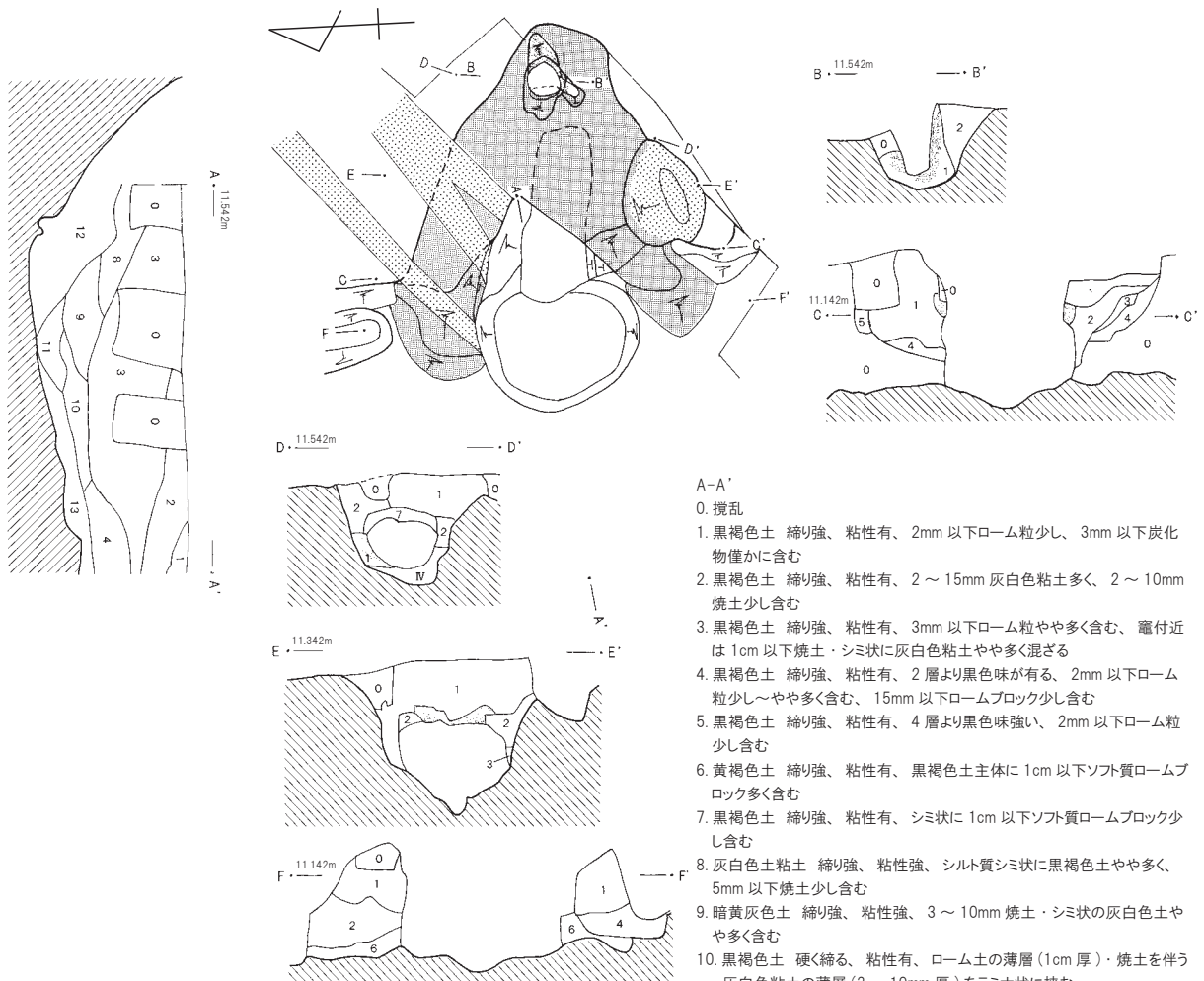


第26図 滝遺跡第25地点本調査遺構配置図(1/400)

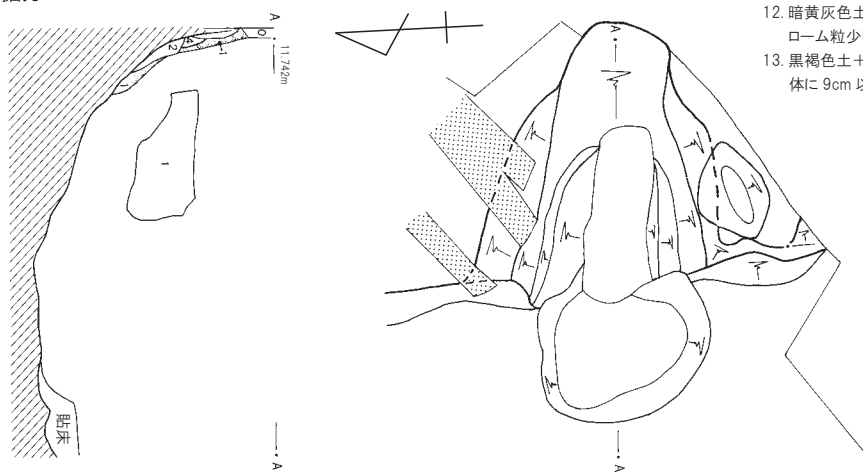


第 27 図 滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡・掘方・遺物出土状況 (1/60)

## 竈

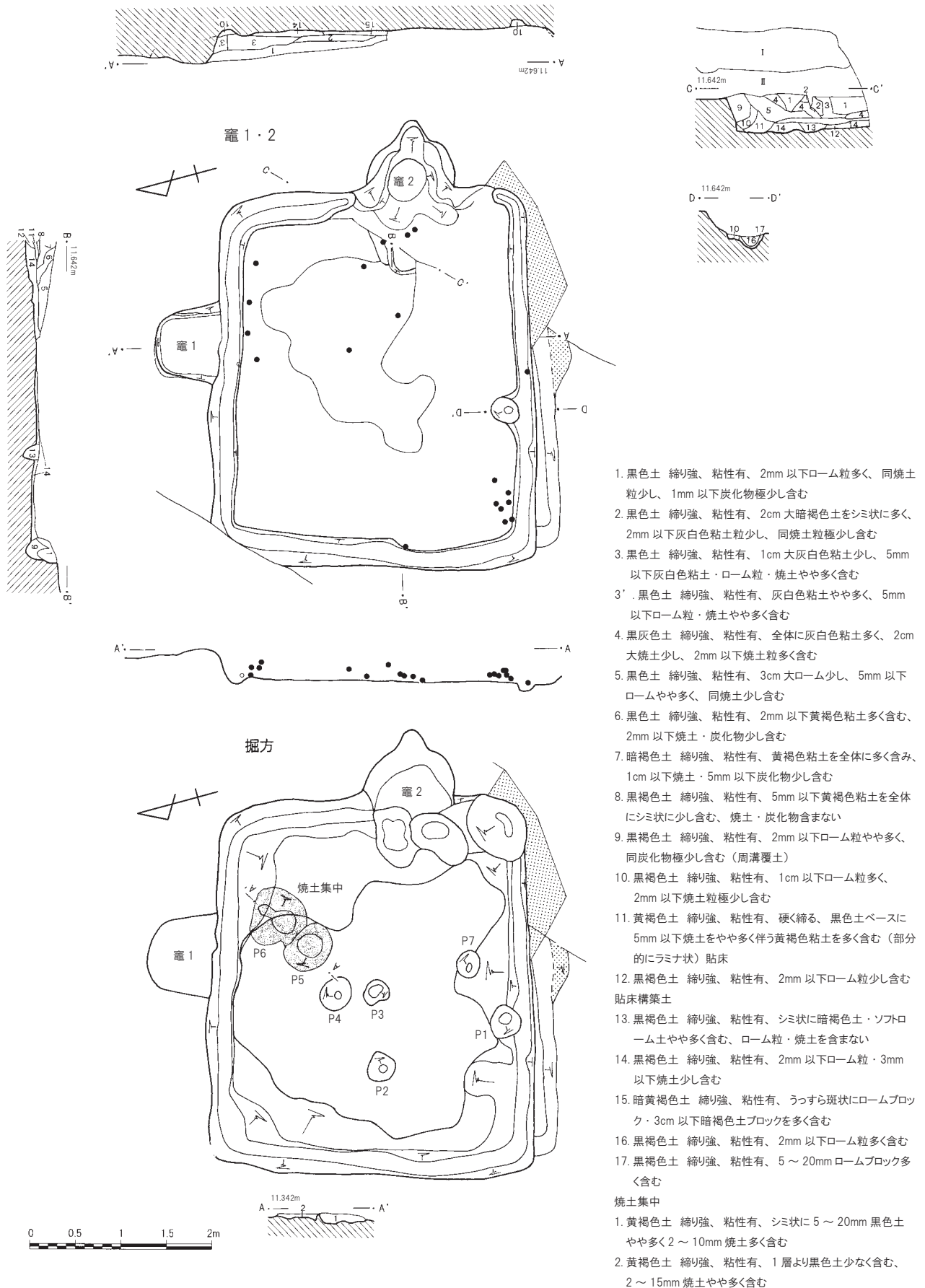


## 掘方



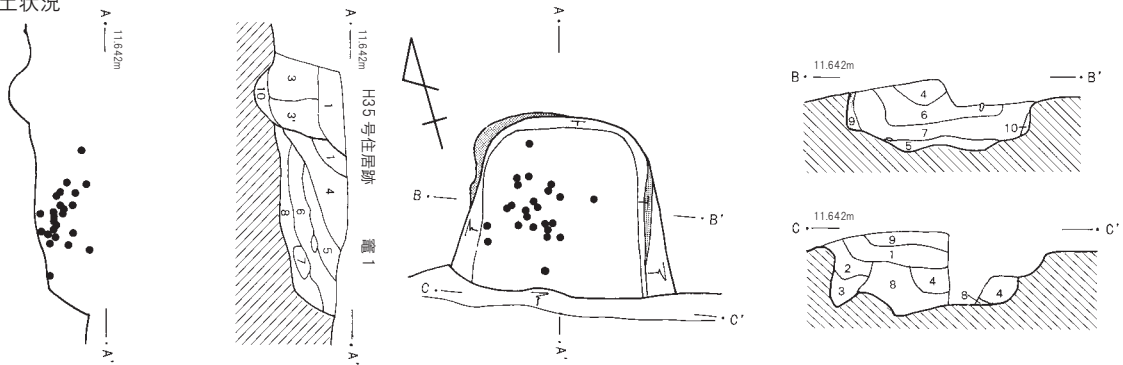
第28図 滝遺跡第25地点 H34 号住居跡竈・掘方 (1/30)



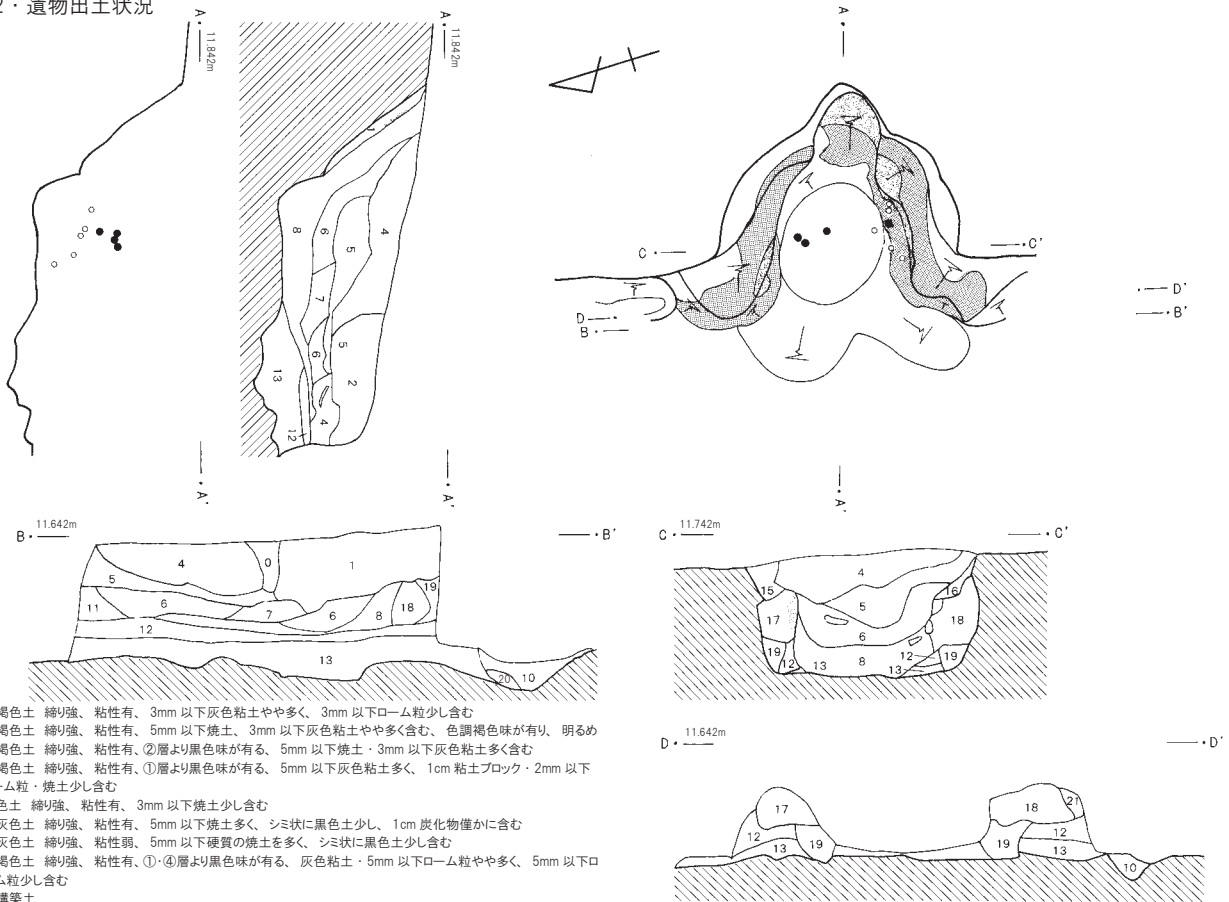


第29図 滝遺跡第25地点H35号住居跡・掘方(1/60)

## 竈1・遺物出土状況



## 竈2・遺物出土状況



## 竈1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下灰色粘土やや多く、3mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土、3mm以下灰色粘土やや多く含む、色調褐色味が有り、明るめ
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、②層より黒色味が有る、5mm以下焼土・3mm以下灰色粘土多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、①層より黒色味が有る、5mm以下灰色粘土多く、1cm粘土ブロック・2mm以下ローム粒・焼土少し含む
5. 黒色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土少し含む
6. 黄灰色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土多く、シミ状に黒色土少し、1cm炭化物塊に含む
7. 黄灰色土 締り強、粘性弱、5mm以下硬質の焼土を多く、シミ状に黒色土少し含む
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、①・④層より黒色味が有る、灰色粘土・5mm以下ローム粒やや多く、5mm以下ローム粒少し含む

## 竈1構築土

9. 明黄褐色土 締り強、粘性有、混入物少ない
10. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、焼土・黄灰色土粒多く含む

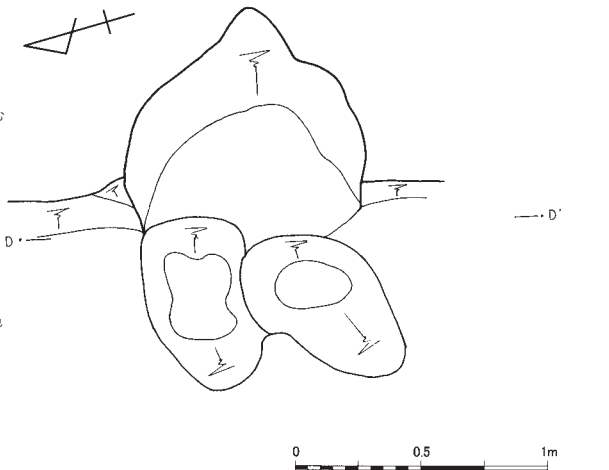
## 竈2覆土

## I. 表土

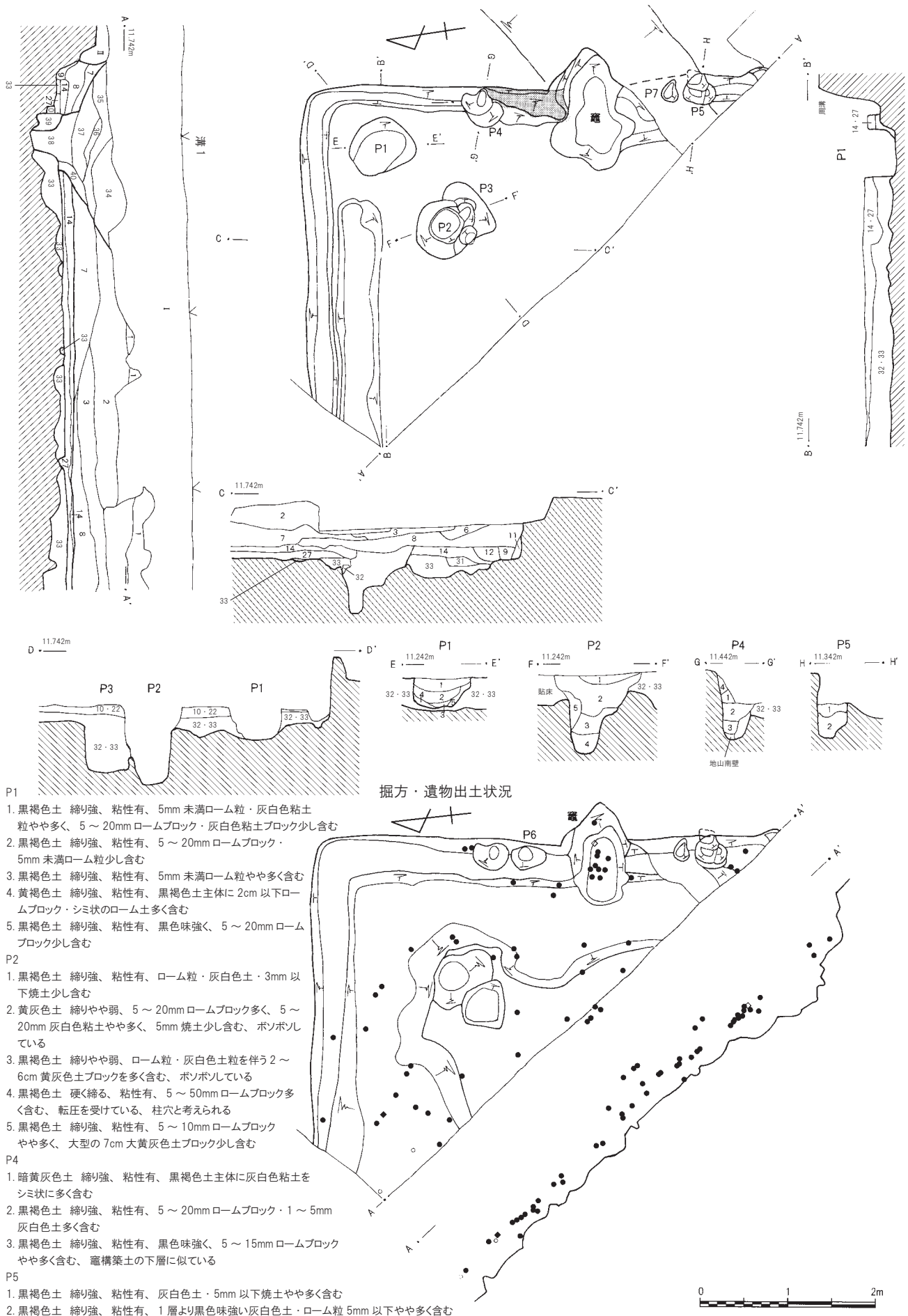
## II. 黒褐色土 ローム粒は少ない

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ソフト質の黄褐色土粒・5mm以下焼土少し含む、
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より色調明る、2mm以下黄褐色土粒やや多く、15mm黄褐色土ブロック・5mm焼土少し含む（ベルトの7層上部に相当）
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、被熱した微細な土粒が主体、5mm以下黄褐色土粒を多く、1cm炭化物少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ベルト7層に同じ、黄褐色粘土を多く含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒全体にやや多く、最下部に5mm以下焼土を多く含む
6. 灰黄色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く、1cm以下焼土やや多く含む、赤褐色味が有る
7. 黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土主体に1cm以下黄褐色土ブロック・粒多く、1cm黒色土・3mm以下焼土・5mm以下炭化物少し含む
8. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状の黄褐色土・焼土・2cm以下黒色土多く含む、赤褐色味が有る
9. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土少し含む、周溝覆土
10. 黒褐色土 締り強、粘性有、ベルト10層に同じ、周溝覆土
11. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、10層より締り強く、中に5～10mm黄褐色土ブロックを間層状（5cm厚）に挟む、5mm以下焼土少し含む、周溝覆土
12. 黒褐色土+黄褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土をやや多く伴う黄褐色土が主体で、ラミナ状に黒褐色土の薄層を挟む、硬く締っている
13. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm暗褐色土ブロックをシミ状に多く含む、硬く締る、灰床構築土
14. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ベルト15層に同じ、灰床構築土
15. 黄褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黒褐色土・5mm以下をやや多く含む
16. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黄褐色土・焼土を多く含む
17. 黄褐色粘土 締り強、粘性強、混入物は少ない、シミ状の黒褐色土・焼土を少し含む
18. 黄褐色粘土 締り強、粘性強、①層に似るが、シミ状の3cm以下黒褐色土多く混ざる
19. 暗黄灰色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒多く、5mm以下焼土少し含む
20. 黄褐色土 ロームブロック主体
21. 黒色土 1cm以下ロームブロック・3mm以下焼土少し含む

## 竈2掘方

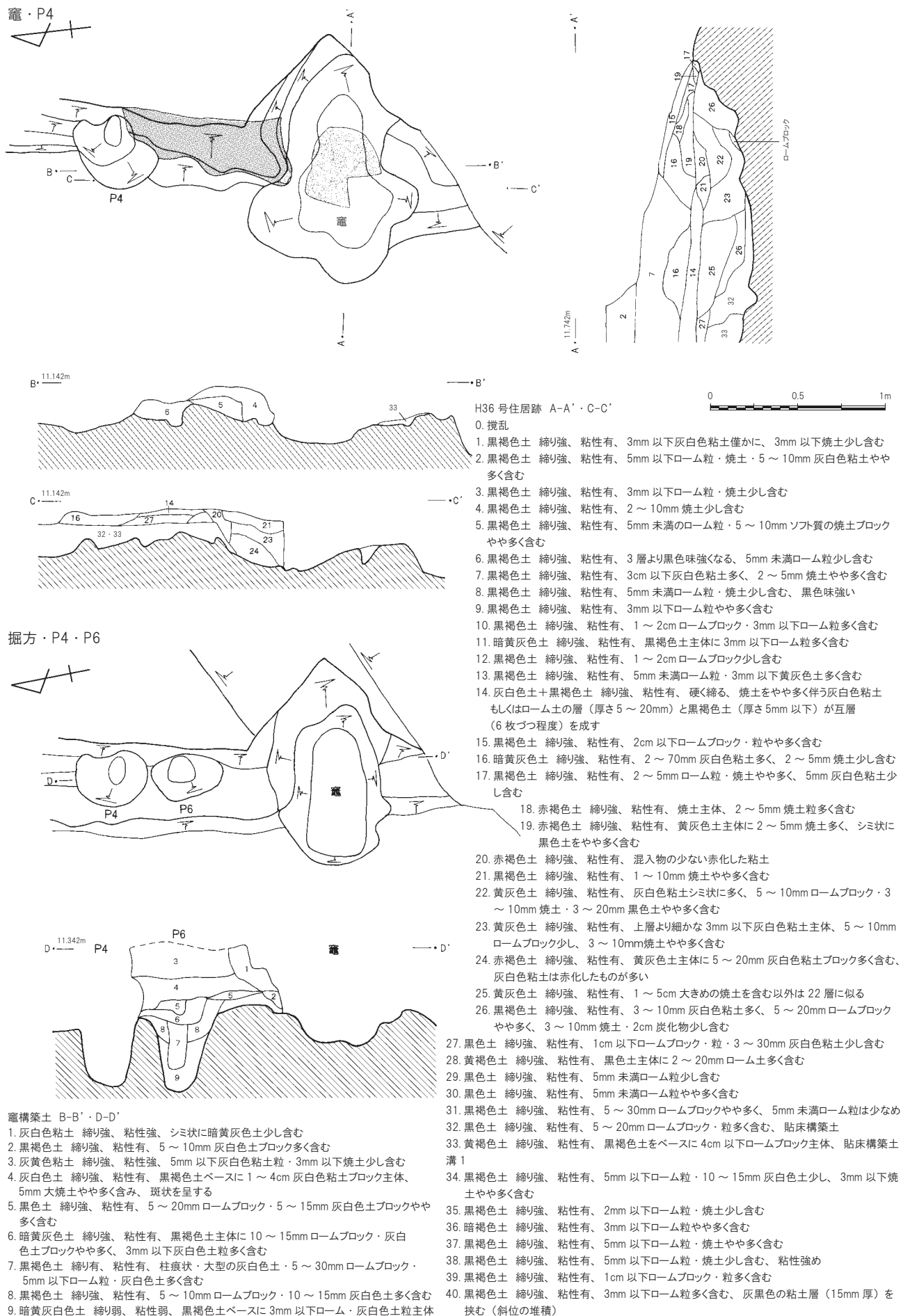


第30図 滝遺跡第25地点 H35号住居跡竈1・2・竈2掘方 (1/30)



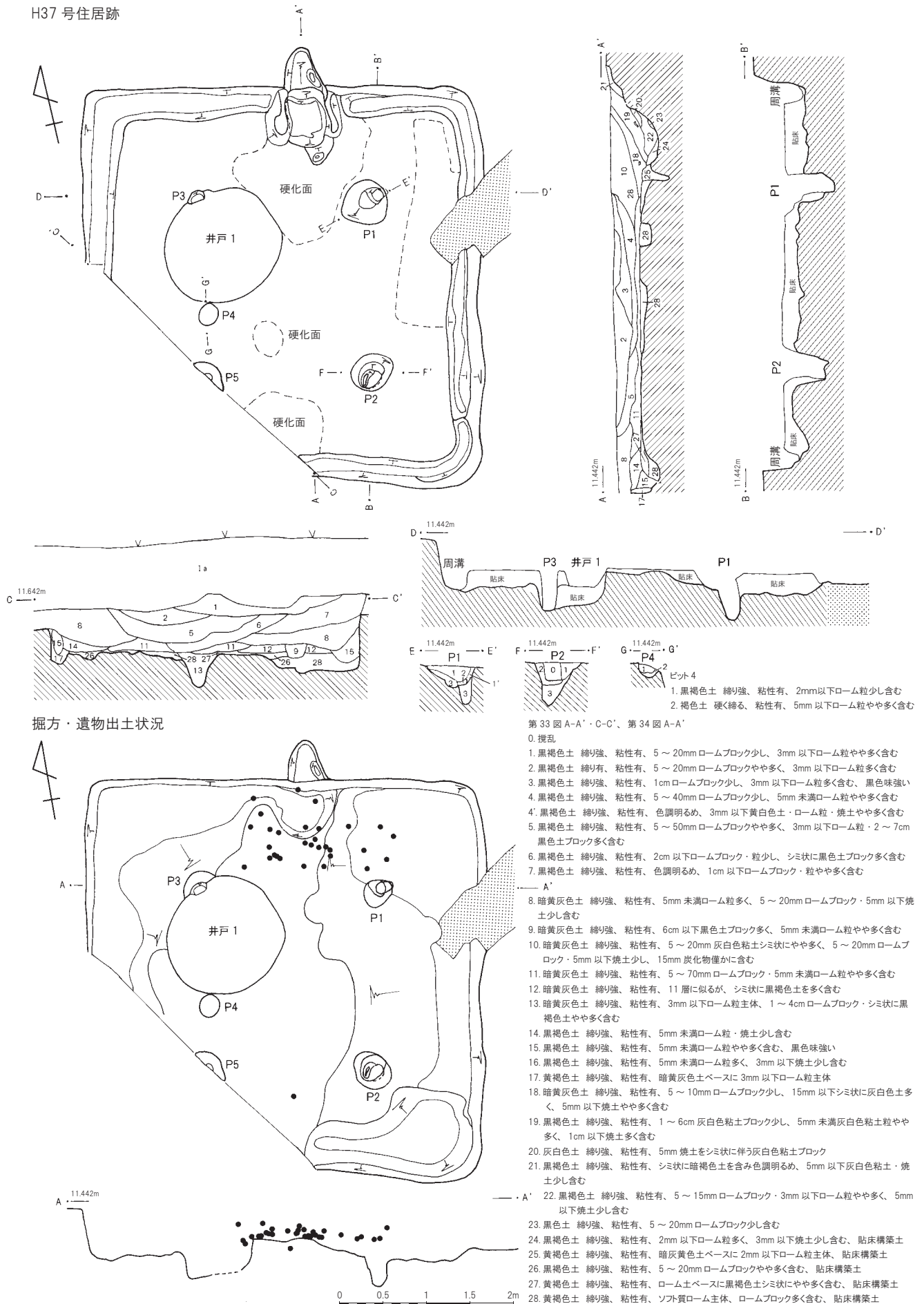
第31図 滝遺跡第25地点 H36 号住居跡・掘方・遺物出土状況 (1/60)





第32図 滝遺跡第25地点 H36 号住居跡竈・掘方 (1/30)

H37 号住居跡



第 33 図 滝遺跡第 25 地点 H37 号住居跡・掘方・遺物出土状況 (1/60)

ピット2の平面形態は円形で規模は確認面径90×65cm、底径33×30cm、深さ79.6cmである。

ピット3の平面形態は方形で規模は確認面径50×48cm、底径38×36cm、深さ70.6cmである。

ピット4の平面形態は楕円形で規模は確認面径40×32cm、底径16×10cm、深さ76cmである。

ピット5の平面形態は方形で規模は確認面径50×45cm、底径20cm、深さ77cmである。

ピット6の平面形態は方形で規模は確認面径40×25cm、底径15cm、深さ78cmである。

ピット7の平面形態は方形で規模は確認面径32×23cm、底径23×12cm、深さ72cmである。

【竈】住居跡東壁に位置し、溝1に削平されるが、煙道と燃焼面を検出した。竈周辺の住居跡の壁から床面にかけて、竈構築部材の灰白色～暗黄灰色土が広がる。竈残存部は長軸100cm、袖部の最大幅100cm以上である。竈内部は推定で幅70cm、奥行き80cmで床面からの深さは10cmである。煙道部は住居の壁を奥行き55cm、幅60cm掘り込む。

【周溝】周溝は2本検出した。周溝1が新しく、周溝2は貼床の下に掘り込まれる。

周溝1は、竈周辺を除き住居跡の壁際を全周する。

上幅10～28cm、下幅5～22、深さ15～25cmである。

周溝2は住居跡北側で、周溝1の内側に平行して延びる。上幅42～50cm、下幅25～35、深さ6.6～14.2cmである。

【遺物出土状況】住居跡床面からやや上の覆土層から僅かに出土する。

#### ④H37号住居跡

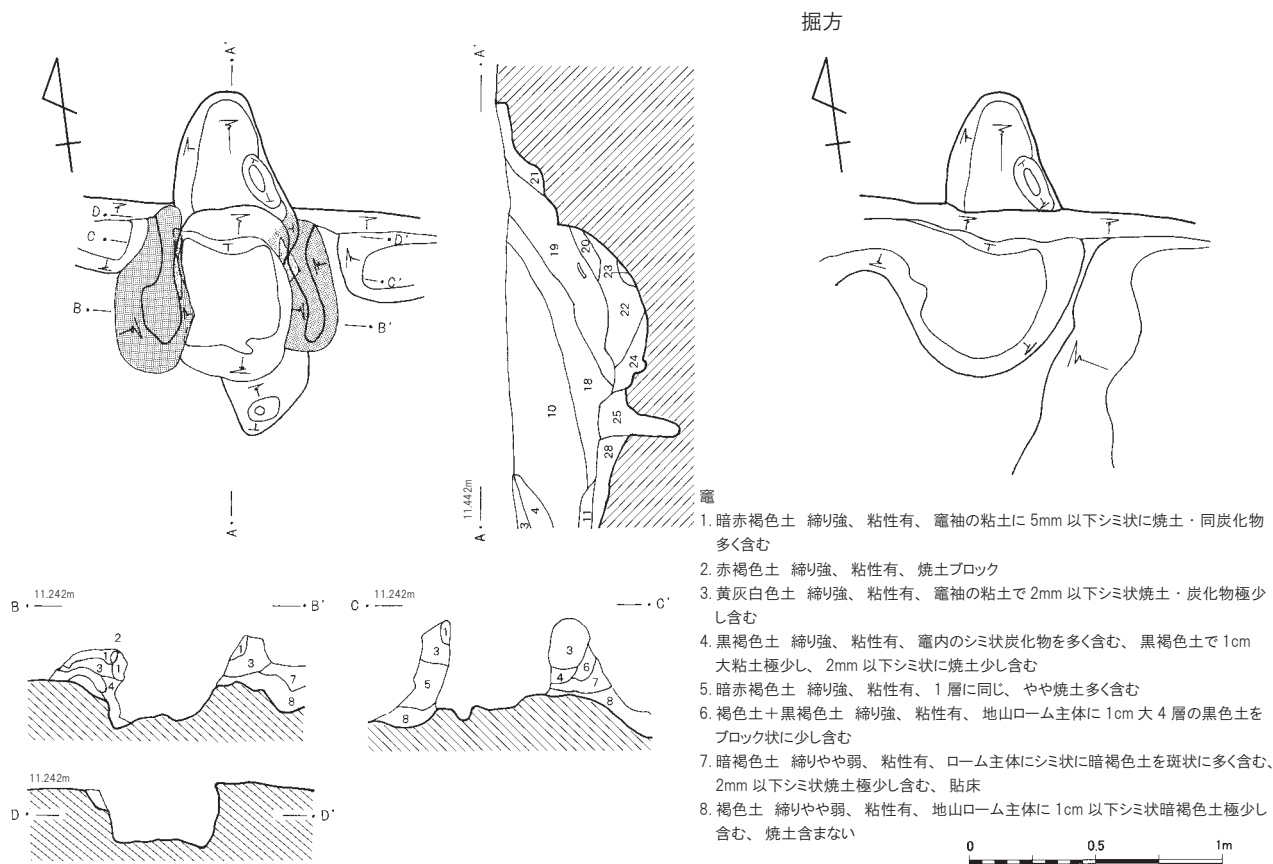
【位置・時期】本住居跡は調査区の中央部に位置し、井戸1と重複する、H37号住居跡が古い。出土遺物から7世紀後半頃とみられる。

【形状・規模・掘方】平面形態はほぼ正方形を呈するが、住居跡南西隅は未検出である。規模は長軸(主軸)、短軸ともに460cm、深さ66cmである。住居跡床面の、竈前面と住居跡中央の一部、南壁際に硬化面がみられる。住居跡の掘方は、ドーナツ状に床面中央部が高く、壁際を深く掘り窪めた後、ロームブロックを多く含む黄褐色土で貼床を行う。

【ピット】支柱穴は4本とみられるが、1本は調査区外のため未検出である。

ピット1の平面形態はほぼ円形で、規模は確認面径50cm、底径13cm、深さ56.9cmである

ピット2の平面形態は楕円形で規模は確認面径45



第34図 滝遺跡第25地点H37号住居跡竈・掘方(1/30)



× 40 cm、底径 25 × 20 cm、深さ 52.8 cmである。

ピット 3 は井戸と重複するため約半分が残存する。規模は確認面径 45 cm、底径 15 cm、深さ 40.4 cmである。

【竈】住居跡北壁中央部のやや東寄りに位置する。

天井はなく、両袖と奥壁、燃烧面を検出した。袖部には構築部材の灰色粘土がみられる。竈残存部の長軸 111 cm、袖部の最大幅 87 cmである。竈内部は幅 40 cm、奥行き 70 cmで床面からの深さは 16.8 cmである。煙道部は住居の壁を奥行き 45 cm、幅 45 cm掘り込む。

【周溝】竈部分以外は全周する。上幅 18 ～ 25 cm、下幅 5 ～ 24 cm、深さ 24 cmである。

【遺物出土状況】竈内と竈周辺の住居跡床面から集中して出土する。

#### ⑤掘立柱建物跡、ピット

【掘立柱建物跡】調査区中央部、トレンチ 8・9 で確認されたピット (P18) で、本調査では新たに P12 ～ 15、19 が掘立柱建物跡に含まれる。P 13 以外は主柱で平面形態は隅丸の方形ないし長方形である。柱痕は P12・14・19 で確認出来る。

桁行は 3 間以上で柱の中心間は 2.0 m、梁行は 2 間以上で柱の中心間は 2.5 mである。

各柱の詳細については、第 11 表のとおりである。

【ピット】試掘調査から本調査まで、ピットの名称については通し番号を付したため、第 11 表では掘立柱建物と単独のピットも併せて一覧表に記載した。

ピットの時期については、全て古代以降の時期のものである。ピット 23 は貝層を伴うもので、井戸 3 と重複し、ピット 23 が新しい。貝類の詳細は第 13 表一覧表のとおりである。

#### ⑥集石土坑

縄文時代の集石土坑 2 基を検出した。集石土坑に伴う遺物は第 41 図No. 63 の玦飾り 1 点が集石土坑 1 より出土したが、須恵器と土師器は表土または包含層出土のものである。

【集石土坑 1】調査区の中央部に位置し、土坑の平面形態はほぼ円形を呈する。規模は確認面径 120 × 112 cm、底径 57 × 50 cm、深さ 20 cmである。礫は土坑内の東側に密に出土する、詳細については第 12

表のとおりである。

【集石土坑 2】調査区の西部に位置し、土坑の平面形態は楕円形を呈する。規模は確認面径 101 × 82 cm、底径 54 × 40 cm、深さ 21.8 cmである。礫は土坑中央部から密に出土する、詳細については第 12 表のとおりである。

#### ⑦土坑

土坑は試掘調査と本調査併せて 2 基を検出した。

土坑 3 は、溝 2 と重複し土坑 3 が新しい。

【土坑 1】調査区中央部に位置する。平面形態は円形で、規模は確認面径 141 × 130 cm、底径 105 cm、深さ 36.2 cmである。

【土坑 2】調査区中央部に位置する。溝 2 と重複し土坑が新しい。平面形態は不整の円形で、規模は確認面径 133 × 110 cm、底径 80 × 66 cm、深さ 75.8 cmである。

#### ⑧井戸

井戸は 3 基検出し、古代以降の時期である。

【井戸 1】調査区中央部に位置し、H37 号住居跡と重複し井戸 1 が新しい。平面形態は円形で、規模は確認面径 185 × 160 cm、底径 78 cm、深さ 238.6 cmである。

【井戸 2】調査区中央部に位置する。平面形態は楕円形で、規模は確認面径 120 × 93 cm、底径 87 × 70 cm、深さ 180.3 cm以上である。底部は未検出である。

【井戸 3】調査区中央部に位置し、貝層を伴うピットと重複する。井戸 3 が完全に埋まった後に、ピットが掘られ、貝類が廃棄されたとみられる。

井戸 3 の平面形態は円形で、規模は確認面径 150 × 140 cm、底径 80 × 76 cm、深さ 209 cmである。貝類の詳細については第 13 表のとおりである。井戸 2 は底が未検出、井戸 4 は西側半分が未検出である。

【井戸 4】調査区中央部に位置する。一部を検出したのみである。検出部の平面形態は円形で、規模は確認面径 354 cm、底径 110 cm以上、深さ 180 cm以上である。

#### ⑨溝

本調査で溝 2 本を検出した。溝 2 は土坑の可能性も考えられる。

【溝 1】調査区北部に位置し東西方向に延びる。H36 号住居跡と重複し、溝が新しい。検出部の断面形態は

第 10 表 滝遺跡第 25 地点出土石器観察表 (単位 cm・g)

図版番号・No.	遺構名・注記No.	種別／器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材／推定生産地	推定年代	残存／備考
第39図12	34号住居跡、No.20	石鏃	2.2	(1.4)	0.4	0.66	黒曜石	縄文時代	一部欠損
第40図46	36号住居跡、H1	打製石斧	(10.7)	5.2	2.0	138.56	砂岩	〃	下部欠損
第40図58	37号住居跡、B区3	打製石斧	11.4	8.3	1.5	131.68	黒色細粒砂岩	〃	完形
第41図63	集石土坑1、No766	玦飾	5.0	(2.8)	0.5	9.53	滑石(灰オリーブ色・透明)	〃	1/2(分割)
第41図109	遺構外、トレンチ12	打製石斧	11.5	5.9	2.0	149.3	細粒砂岩	〃	完形

葉研状で、規模は上幅 120～144 cm、下幅 10～24 cm、深さ 57.6～64.8 cmである。

【溝2】調査区南部に位置し南北方向に延びる。土坑3と重複し、溝が古い。検出部の断面形態は浅い「U」字状で、規模は上幅 70 cm、下幅 35～40 cm、深さ 60 cmである。

#### ⑩ H 34～H 37 号住居跡出土遺物

【H34 号住居跡出土遺物】1～3 は丸底の土師器坏。

1 は口径 13.0 cm（現存 1/6）、器高 4.3 cm。口唇部は緩く外湾し内側に一条の細い沈線が回る。外面は丁寧な横へう削り、内面に放射状の暗文を施す。胎土に 1 mm 前後の細かい黒い砂粒と、白色針状物質含む。2 は完形で口径 12.4～11.7 cm、器高 4.3 cm。口唇部は浅い沈線を加え斜位に外湾。外面は口縁部に強い横ナデ後、右下方に丁寧なへう削り。内面は木口状工具で横ナデ。胎土は白色針状物質含む。3 は 1/5 現存。口径 13.2 cm、器高 4.5 cm（推定）。口唇部は斜位に尖り気味に整形。口縁部は強い横ナデ後、横位に一周するへう削り。内面上半は横ナデ、内面色調は黒褐色で、胎土は白色針状物質含む。4・5 は口唇部内側に細い沈線が回り、口縁部と体部が分離した土師器坏。4 は口径 13 cm 1/10、5 は口径 14 cm、いずれも 1/12 ほどの小破片。器厚は、上記 1～3 に比べ 3 mm と非常に薄く、色調は黄褐色。

6 は土師器長胴甕。口径 21 cm（現存 1/12）。口縁部・

外面内面に強い横ナデ後、胴部外面に縦へう削り。胎土に白色針状物質と、雲母の微粒子含む。7 は土師器甕の口縁部片。口径 20 cm（現存 1/12）。外面は口縁部に斜めへう削り、内面は木口状工具による横位のナデ。8 は土師器甕。口径 15 cm。口径 1/4 現存。胴部は全周し上半は 14～15.3 cm である。胴部は縦へう削り、底部は横位のへう削りで丸く整形。器面は全体に光沢を帯び、胴部内面は木口状工具で横位に整形、底部内面はナデ上げ調整。胎土は 6 に似る。9 は土師器丸甕。底径 8.5 cm（1/2 現存）。底部に木葉痕が有るが風化が激しい。外面は垂直に縦へう削り。器面が堅く乾燥したためへう削りの一部にキャタピラ状の段差が付く。底部内面は同心円状に木口状工具の整形痕が付く。胎土は 6 に似て、白色針状物質と雲母の微粒子を含む。

10・11 は須恵器壺。10 は色調赤褐色、外面に平行叩き痕、内面に同心円状の押さえ痕。胎土に 2～4 mm の石英粒子を多量に含む。11 は外面平行叩き後、ささら状工具で斜位に整形痕を残し、色調暗灰褐色。胎土に 2 mm 前後の石英粒子と白色針状物質を含む。

【H35 号住居跡出土遺物】13～17 は須恵器。13・14 は坏。13 は口径 13.5 cm（1/3 現存）、器高 3.5 cm、底径 8.5 cm。底部中央に回転糸切り痕が有り、周縁を大きく回転へう削り。外面は滑らかに調整。胎土に白色針状物質を多量に、2～3 mm の石英と 1～3 mm の黒い砂利粒を含む。色調暗灰色。14 は口径 12.8 cm（1/3 現存）、器高 3.3 cm、底径 8.5 cm。色調青灰色。回転糸切り後、周縁部回転へう削り。口縁部内面と外面に強いロクロ指圧痕有り。胎土に白色針状物質を多量に、2～3 mm 石英を含む。15 は高台付き坏。高台の外縁径 7.8 cm。回転糸切り後（わずかな痕跡）、周縁部を回転へう削りし、高台を貼り付け指ナデ整形。胎土に白色針状物質と、5 mm 前後の石英と黒い砂粒を含む。底部内面は磨かれ、転用硯か。16 は坏で時期が新しく、この住居に伴わない。口径 12.0 cm（1/10 現存）。青灰色。胎土に白色針状物質と黒色粒子を含む。

17 は須恵器壺。口径 17.3 cm（現存 1/8）。口唇部が一部ゆがみ、頸部外面に 3 条ほどの細い沈線が回る。内面に頸部接合痕が顕著である。外面灰褐色、内面暗灰色。胎土に 5～7 mm の砂利と白色針状物質を含む。

18～22 は土師器。18～21 は甕。18 は口径 21 cm。口唇部外面に輪積接合痕が残る。1/3 現存。外面はくの字状に、内面はコの字状に屈曲。口唇部内面直下に

第 11 表 滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡ピット一覧表  
(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	105×75	60×55	13.4	
2	円形	75×80	25×25	96.6	
3	方形	60×45	25×25	42.0	
4	(方形)	5×80	0.5×1	53.8	
5	方形	55×35	40×20	14.2	
6	方形	70×75	45×50	32.7	
7	方形	65×55	40×35	37.4	
8	方形	50×70	25×35	60.1	
9	方形	80×75	40×25	65.6	
10	円形	20×10	—	13.4	
11	方形	55×55	30×25	34.4	
12	方形	50×65	15×20	50.6	掘立柱建物跡
13	方形	35×30	25×20	21.3	掘立柱建物跡
14	方形	75×35	10×20	55.8	掘立柱建物跡
15	方形	50×45	20×15	30.4	掘立柱建物跡
16	方形	40×35	20×20	17.8	
17	方形	80×40	20×25	50.0	
18	方形	55×40	20×15	46.6	掘立柱建物跡
19	方形	70×60	40×30	64.8	掘立柱建物跡
20	方形	25×15	10×10	10.4	
21	方形	65×25	55×15	37.9	
22	方形	30×35	20×20	21.6	
23	楕円形	67×40	15×15	21.8	(井戸3重複)

木口状工具で横位にナデ。口縁部外面は全体に強く押さえ、胴部は横位にヘラ削り。胎土は非常に細かい雲母砂粒を含む。19は口径21 cm。現存1/8。21と接合しないが同一個体。口縁部外面は、くの字状に外湾し、内面はコの字状に屈曲する。胴部外面は横位のヘラ削りで、キャタピラ状段差が残る。内面に木口状工具で逆時計回りに、横位のナデ整形。胎土に白色針状物質・雲母の極小粒子を含む。20は口径22 cm（現存1/8）。頸部はコの字状に屈曲し、口縁部外面は2カ所に分かれて強い横ナデ。18・19よりも新しい時期である。21は胴部片で19と同一個体。胴部最大径22 cm程度。内面下部に接合痕有り。22は小形台付き甕。口径12.0 cm（現存1/12、推定）。上半と下半の破片は接合しない。口唇部はつまみ上げるように整形、外面はUの字に、内面はコの字状に成形。胎

土に白色針状物質と極小雲母砂粒を含む。

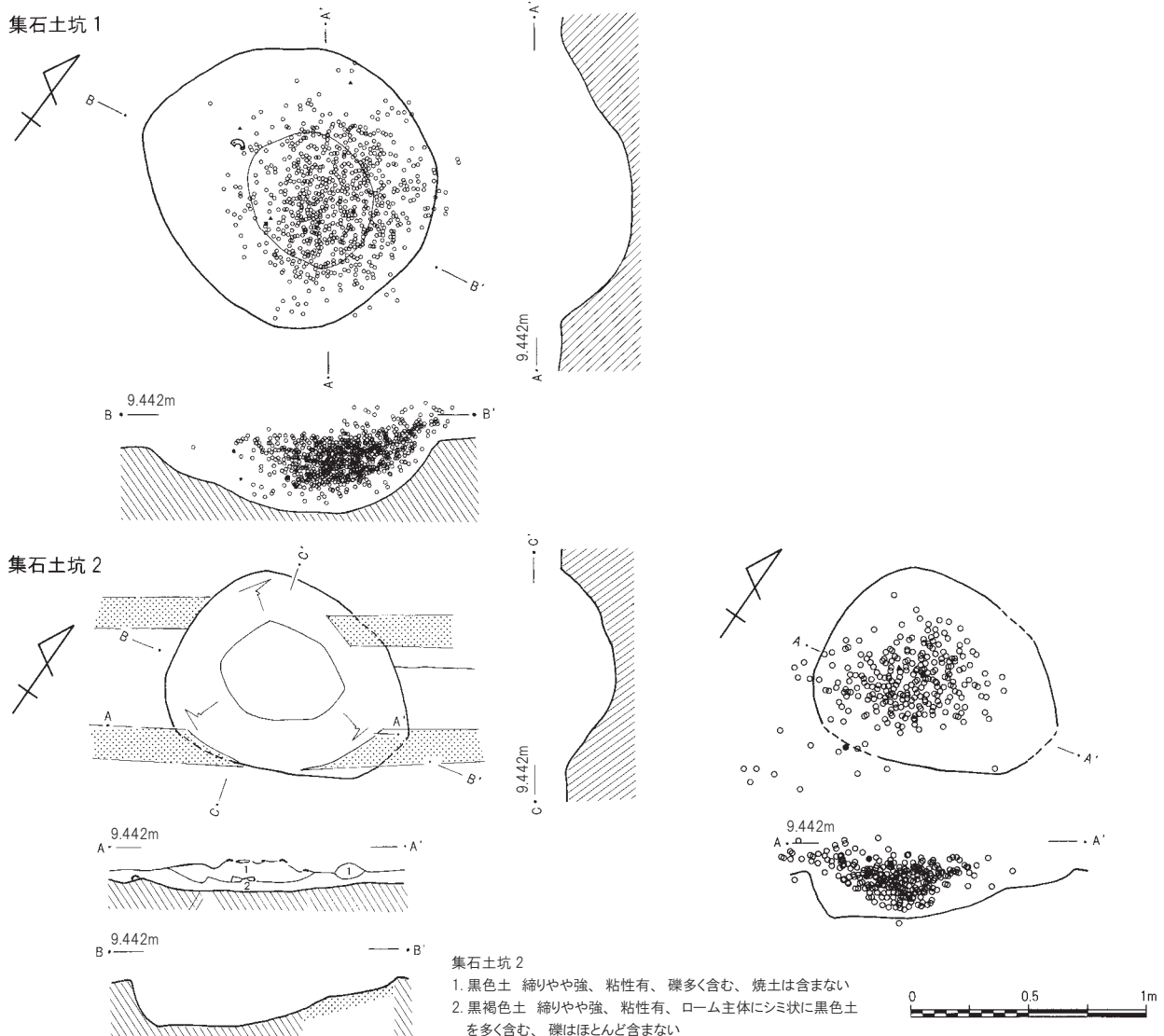
23～25は、本住居の時期と合致しない土器群。23は比企型坏の破片。口径16 cm（現存1/12）。24は口径24 cm（現存1/12）。25は壺の底部破片。底径7 cm。いわゆる円環技法による、古墳時代初頭。

【H36号住居跡出土遺物】26～36は須恵器。26～28は蓋で胎土に白色針状物質を多量に含む。26は口径18.6 cm（1/4現存）。肩部に回転ヘラ削りを施す。暗灰色。27は口径15.6 cm（1/8現存）。肩部に回転ヘラ削り。色調暗灰色。内面に自然釉。28は口径16.6 cm（1/8現存）。灰白色。

29～31は椀。29は口径19.0 cm。1/5現存。口唇部は内側に斜位に整形。外面は滑らかで、底部への移行部に回転ヘラ削りが残るが底面は不明。色調青灰色、外面上半黒青色。30は口径17.3 cm（推定）。

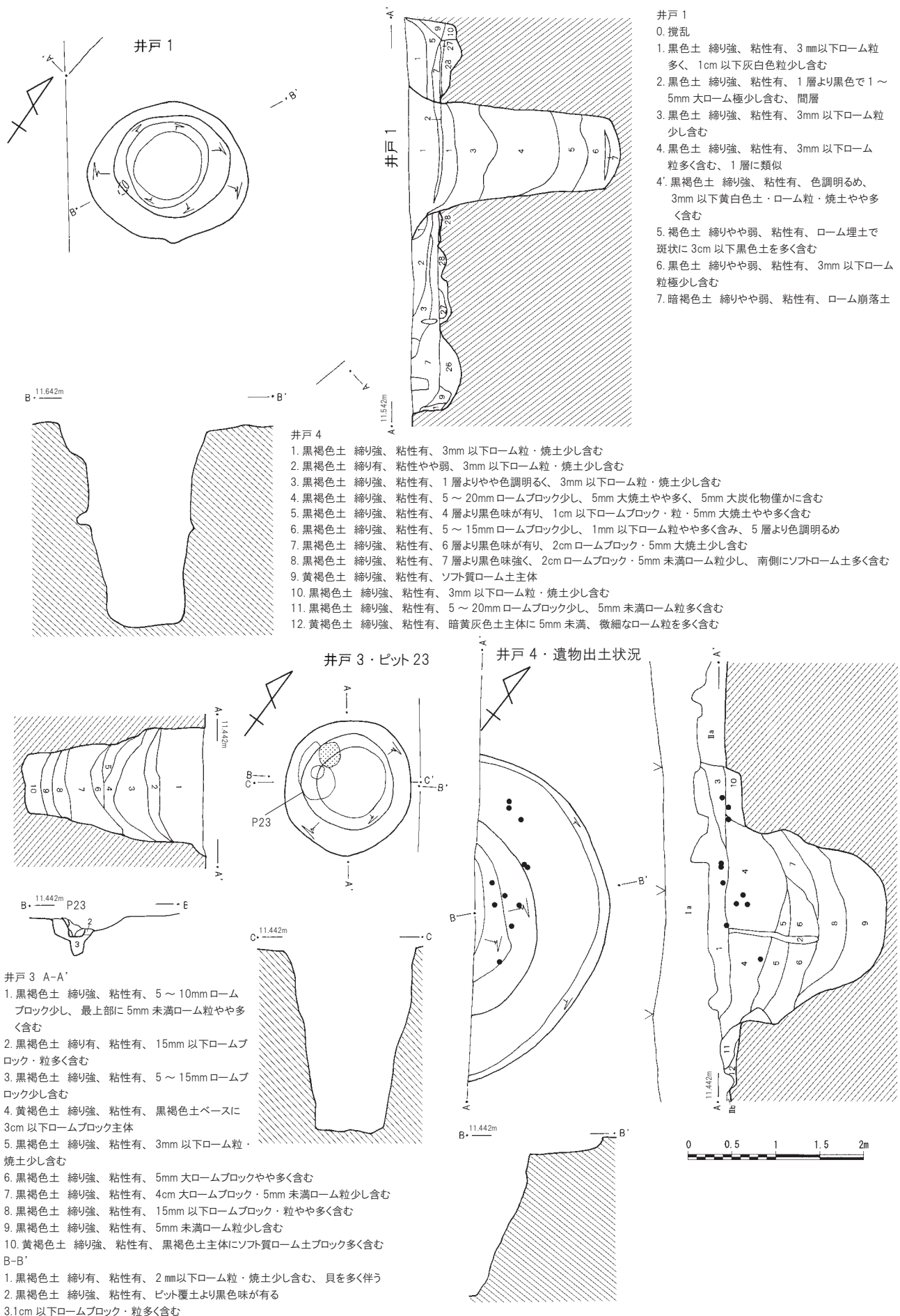
第12表 滝遺跡第25地点集石土坑出土礫観察表（単位 cm・個数・g（%））

	総点数	総重量	平均重量	石損数	定型数	焼成数	未焼成数	タール数	タール未
集石土坑1	909	67,833.42	74.6242	884(97.25%)	25( 2.75%)	467(51.38%)	442(48.62%)	433(47.6347%)	476(52.37%)
集石土坑2	340	31,473.85	92.5701	273(80.29%)	67(19.71%)	247(72.65%)	93(27.35%)	321(94.4117%)	19( 5.59%)



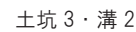
第35図 滝遺跡第25地点集石土坑1・2・遺物出土状況(1/30)





第36図 滝遺跡第25地点井戸1・3・4・遺物出土状況 (1/60)

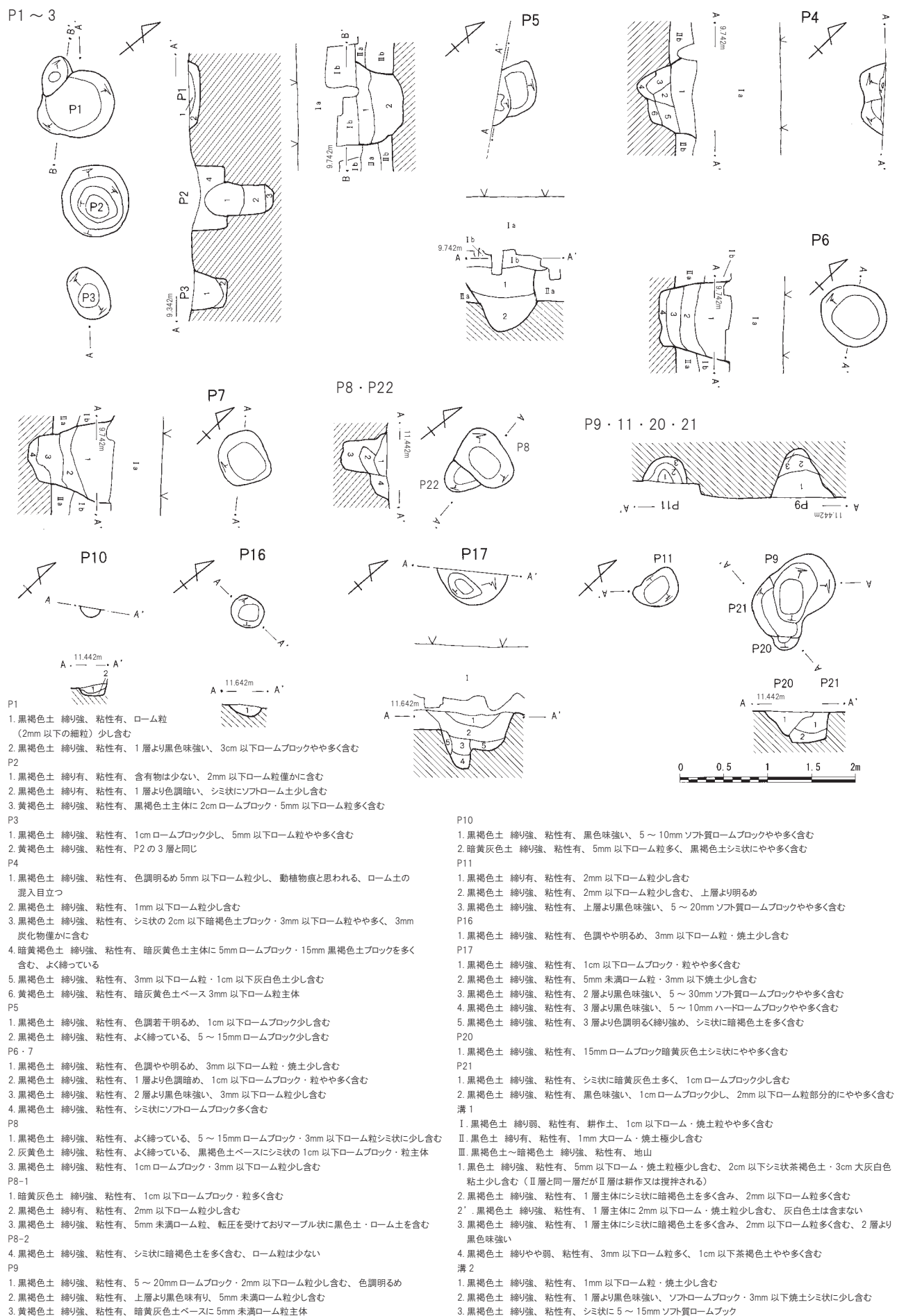
土坑 1・井戸 2



## A. ✓



第 37 図 滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡・土坑 1～3・井戸 2・溝 1・2(1/60)



第38図 滝遺跡第25地点ピット1～11・16・17・20～22(1/60)



1/10 現存。口唇部は平坦で内側にやや傾く。口縁部は膨らみをもち丸く整形、底部は小さい。外面は滑らかで自然釉が掛かる。29・30 は胎土に白色針状物質を含む。31 は口径 13.0 cm。1/8 現存。口唇部は指頭により強く押さえつまみ上げるように細く整形。外面・内面は滑らかで、色調暗青色。胎土に白色針状物質と 2～3 mm の石英粒を含む。

32～36 は須恵器坏で胎土に白色針状物質含む。32 は口径 15.0 cm。1/3 現存。器高 2.8 cm。底径 12 cm。暗灰色。口縁部は内傾気味に立ち、口唇部は斜位に整形。外面は滑らかで、底部は全面回転ヘラ削り、底部への移行部にも回転ヘラ削り。胎土に 2～3 mm の石英粒子を多量に含む。33 は口径 15.2 cm。器高 4.4 cm、底径 9.4 cm、ロクロ円柱径 8.4 cm。完形。色調黄褐色。口唇部先端は内湾し立ち上がり整形。外面は滑らかで、底部は回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り、幅 1.4 cm で調整。内面底部と体部の境に爪立て痕が一周。胎土に石英と黒い砂粒を含む。内面口唇部より 7～8 mm の範囲にカーボンが付着（図示トーンの範囲）。34 は口径 13.6 cm。1/8 現存。内外面ともにロクロ水引痕が著しく、体部中央下半に手持ちヘラ削りが横位に施される。色調灰白色。35 は口径 13.8 cm。現存 1/8。色調灰褐色。外面滑らか。36 は、口径 14.0 cm。現存 1/8。口唇部は細くつまみ上げられ外湾。体部下端と底部に回転ヘラ削りを施す。

37～42 は土師器。37 はいわゆる盤状坏。口径 18 cm。接合しないが 2 片の同一個体で 1/3 現存。ロクロ整形で器面に緩やかな水引き痕が残る。口唇部内側に一条の細い沈線が回り、内外面赤彩。器面は滑らかで、胎土はよく精錬され白色の砂粒と微量の雲母を含むが目立たない。

38 は甕。口径 22 cm。1/6 現存。口唇部に指の押圧痕有り。屈曲部は強い横ナデで湾曲。外面はくの字に折れ、内面はコの字状に整形。外面の屈曲部に、深く横ヘラ削り痕有り、胴部は斜め下方にヘラ削り。39 は甕の底部で、縦方向ヘラ削り。ヘラ削り痕はキャタピラ状の段差が付く。40 は 38 の底部とみられる。底径 4.8 cm。内面底部に木口状工具で、中心に一端を当てた回転整形を施す。41 は小形台付甕。胴部上半、胴部、脚部があるが、うまく接合しない。口唇部欠落、推定口径 12.5 cm、脚部端まで推定器高 16.5 cm。脚部底径 10 cm。42 は台付甕の脚部（脚全周現存）。底径 12 cm で比較的大形。胎土に白色針状物質と極小の雲

母粒子を含む。

43・44 は須恵器壺の口縁部片、口径 32 cm。1/6 現存。同一個体とみられる。胎土に白色針状物質、3～5 mm 石英砂利を含む。口縁部内面に濃紺色粒子のように混じる灰白色の自然釉が掛かる。外面は黒青色。45 は須恵器甕の突手部破片。胴部の厚さ 5 mm。突手は幅 2.2 cm、長さ 4.5 cm の楕円形の突起を貼り付け、内側に 1 cm の先端が尖った工具で刺突。色調暗青色で肌黄色の自然釉が掛かる。胎土は白色の砂粒を多く含む。

【第 37 号住居出土遺物】47 は須恵器長頸瓶の底部。高台径 8 cm（1/8 現存）。底部は回転ヘラ削り。内面中央に粒状に緑色の自然釉が付着。内面のロクロ痕は強く凹凸が激しい。胎土に白色針状物質と 5 mm 前後の石英を含む。色調灰褐色。48 は須恵器高台付き坏。高台径 7 cm（1/8 現存）。底面が丸く突出したいわゆる出尻の坏。全面回転ヘラ削り調整。色調青灰色。胎土に白色針状物質と、1～2 mm 前後の石英を多量に含む。

49～57 は土師器。49 は口径 13.0 cm。1/5 現存。口唇部は外湾し先端が斜位に整形される。体部下半は丁寧なヘラ削り、口縁部の段差に沿って横位に一周ヘラ削りを施す。胎土に黒い砂粒を含む。50 は口径 15 cm。1/8 現存。口縁部は強く外湾し先端が丸い。口縁部と体部の境に著しい段差があり、段差に沿って丁寧な横ヘラ削りを行う。胎土はよく精錬され、大きな砂粒はない。色調は黄色。51、52 はいわゆる比企型坏。51 は口径 13.0 cm。1/10 現存。口唇部は、内側に斜位に整形し、口縁部と内面に赤彩を施す。胎土に 2 mm 前後の黒い粒子を含む。52 は口径 15.0 cm。1/12 現存。口唇部は、横ナデにより緩く外湾、体部は丸くヘラ削り整形し、口縁部と体部の境は顕著でない。口縁部と内面に赤彩。胎土に 2 mm 前後の黒い粒子を含む。

53 は古墳時代初頭の五領期の二重口縁壺形土器の破片と思われる。口径 15.8 cm。1/8 現存。口唇部内側に浅く丸い一条の沈線が回り、体部は大きく外湾気味に反る。外面下半部にナデによる凹凸が残る。頸部に続く強い段差があるが、内面はこの段差が緩やか。胎土は非常に精錬され混和材は見た目には分らない。内外面むら無く赤彩され光沢をおびる。断面の色調は黄茶褐色。35 号住居出土の No.25 の底部と同時期。

54 は土師器甕の底部。34 号住居出土の No.8 の類いと思われる。外面は全面ヘラ削りで丁寧に丸く整形

され、光沢をおびる。

55は土師器台付き甕。口径14.2 cm。1/2 現存。外湾する口縁部に一条の沈線が回り、口唇部は強い横ナデで先端が尖る。口縁部から胴部内面に木口状工具で横位へう削り調整、胴部外面は斜め下方にへう削り。56は土師器長胴甕の口縁部片。口径22.5 cm（1/10 現存）。口唇部先端は丸く、口縁部は強い横ナデ。57は土師器丸甕。上半と下半の破片だが接合しない。口径19 cm。現存口縁径1/7。胴部最大径26 cm。底径推定7.5 cm。口唇部は直角に処理し一条の沈線で整形、胴部は斜位にへう削り。内面は全体に右上がりに大きくナデ上げ。胎土に3～5 mmの黒い砂粒を多量に含む。器厚4～7.5 mm、胴下半部は8 mmと厚い。

【H38・40号住居跡出土遺物】出土遺物で図示可能なものは無い。

【H39号住居跡出土遺物】59は土師器の口縁部で、口径22 cm。1/12 現存。口唇部は強い横ナデで先端は指で内湾気味につまみ上げる。

#### ①集石土坑、土坑、井戸、溝出、遺構外出土遺物

【集石土坑】60は須恵器大形壺の口縁部片。幅5 mmの半截竹管による平行沈線を2 cm間隔で引き、その間を5本単位の櫛歯状工具で波状文を施文。色調青灰色。胎土に1～2 mmの黒色と白色粒子を含む。風化が激しい。61は土師器環。口径14.5 cm。現存1/10。口唇部内側に沈線が回り、先端を尖らせる。62は土師器台付き甕の脚部。脚底径12.5 cm。口唇部先端内面は、指で引出し後、叩きつけて水平に成形。

【土坑1・3】64、65は土師器環。64は口径20 cm。現存1/16。口唇部内側に細い沈線を引き、口唇部先端は突出気味に整形。胎土に雲母粒子と白色針状物質を含む。内面黒色、外面黒褐色。65は口径20 cm。現存1/8。口縁部は外湾し、口唇部内側に太い沈線が巡り先端を突出に整形。体部は深く、へう削りは丁寧に施す。胎土に雲母の砂粒と白色針状物質を含む。

66～68は須恵器。66は蓋の破片。口径20 cm。1/16 現存。67は須恵器環の破片。口径15 cm（推定）、現存1/12。68は須恵器環の底部片。底部は全面回転糸切り切り。

69～81は土師器。69は現存1/12の小破片。口唇部内面に沈線が回る。口縁部は緩く外湾する比企型環。69・70・72・73・74・75・76・78は内面と外面口縁部に赤彩。70は口径12.3 cm。1/3 現存。口縁部と体部の境に浅い沈線で区画。色調黄褐色。71は

口径12.4 cm。1/3 現存。口唇部内面に沈線、口唇部先端を突出させる。体部の横へう削りは口縁部にまで及ぶ。内・外面に赤彩。72は口径11 cm、1/4 現存。体部から湾曲し口唇部は垂直に立ち上がる。口唇部内面に幅0.3 mmの細い沈線。口唇部内面に一部カーボンが付着。73は口径11 cm。口唇部を緩く外湾させ内面に沈線が回る。内面に格子状の暗文を施す。74は口径14 cm。器高4.4 cm（推）。1/2 現存。口縁部を外湾させ口唇部先端を尖らせる。体部は丸く整形。色調黄褐色。胎土に1～2 mmの黒い砂粒を含む。75は口径13 cm、現存1/12。口唇部に非常に細い沈線。体部を丸く整形し口縁部は緩く外湾。76は口径17 cm。1/12 現存。体部の器厚が厚く、口縁部と体部の境界は段差がつく。77は口径11 cm。1/16 現存。口唇部内面に沈線。体部は直立気味で口唇部1 cmほど横ナデで体部は横位にへう削り。内面にはへう磨きを施す。78は口径16 cm。1/8 現存。口縁部は大きく外湾し口唇部は細く尖り気味に整形。体部の器厚が厚く、口縁部と体部の境界は段差がつく。79は口径13 cm。1/8 現存。口縁部は垂直に立ち上がり、口唇部は内湾気味に整形。大きな面取り風の横へう削り。

80は口径15.8 cm、現存1/8。いわゆる盤状環。内面に口唇部先端から3 cm下方にロクロによる凹み有り。内外面赤彩。内面に細い放射状の暗文が付き、一部重なる。81は土師器長胴甕の口縁部破片。口径17 cm。口唇部先端内面に強い押さえで口唇部は立ち上がり気味になる。

【井戸1・3・4】82は口径12.8 cm、1/12 現存。比企型環。体部が丸く口縁部先端に沈線。口唇部外面5 mm幅と内面全面に赤彩。83は須恵器鉢、色調青灰色で黒い砂粒を多く含む。内外面滑らか。84は須恵器椀。口径15 cm土器。外面は滑らかで、内面はロクロ痕の凹凸が激しい、色調灰白色。85は口径12.5 cm、現存1/12。比企型環。体部が丸く、口唇部内側に沈線。外面口唇部5 mm幅と内面全面に赤彩。

86は須恵器椀。口径16 cm。1/8 現存。色調暗灰色。器面の外面と内面ロクロ痕は滑らかで、人間群内の窯跡産と思われる。外面に自然釉。87は須恵器で器形不明。口径32 cm（推定）1/16 現存。頸部に波状のロクロ痕有り、口縁内面に緑色の自然釉。88は口径13.5 cm。1/12 現存。89は口径15.0 cm、1/8 現存。90は口径13 cm、現存1/8。91は口径17 cm、1/12 現存。92は口径17.5 cm、1/12 現存。88～90は比

企型環。91 は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部内面に一条の沈線が回る。色調内外面ともに暗褐色。児玉地方の環。92 は外側に大きく外湾し、体部と口縁部に段差が付く。

【遺構外出土】93～95 は須恵器蓋。93 は口径 20 cm、1/12 現存。色調暗青色。白色針状物質と 1～2 mm の白い砂粒を含む。94 は口径 15 cm、1/4 現存。色調暗茶色。肩部に回転ヘラ削り。95 は、口径 17 cm。1/8 現存。色調灰白色。内面ロクロの痕が顕著で、外面に灰色の斑点状の自然釉が掛かる。

96 は須恵器高台付環。口径 14 cm、器高 3.4 cm、高台径 10 cm、口縁部 1/8・底部 1/4 現存。底部は高台よりも下方へ突出。内外面ロクロ痕が付くが滑らか。色調灰白色で、胎土に 2～6 mm の黒い鉱物を含む。97 は須恵器環。口径 16.6 cm。器高 3.0 cm、底径 12 cm。1/5 現存。体部は直線的に開き、底部は回転糸切り後周辺部回転ヘラ削り。色調暗灰色で胎土に白色針状物質と白い砂粒、2 mm 前後の黒い鉱物を含む。98 は口径 13.2 cm、器高 2.2 cm、底径 11.5 cm。体部は直線的開き、底部は全面回転ヘラ削り。色調暗青色で胎土に白色針状物質と 1～2 mm の石英粒子を含む。99 は須恵器碗、口径 16 cm。1/7 現存。内湾気味に立ち上がり、口唇部内側に一条の沈線、口唇部は細く尖り気味。外面のロクロ痕は著しく幅 7 mm 前後で均等に付く。色調明茶白色。口唇部内側の沈線を加えた土器は珍しい。100 は須恵器壺。短頸の口縁で口唇部先端は平坦な角を張り出すように整形。外面には光沢をおびた暗緑色の自然釉が掛かる。色調灰白色。

101 は土師器環。口径 9.2 cm。口縁部は直線的に内傾して立ち上がり、口唇部は膨らみを持って丸く整形。体部は外に張り出す段差を付ける。色調暗茶色で白色針状物質を含む。102 は口径 16 cm。口縁部は垂直に立ち、口唇部は僅かに外湾して丸く整形。器厚 5～6 mm。体部に幅広の横ヘラ削りを施す。白色針状物質と 2～3 mm の黒色砂粒を含む。103 は口径 14.4 cm。1/10 現存。口唇部内面に沈線を加え、口唇部先端を尖り気味に突出。色調赤褐色。胎土に白色針状物質と 2～3 mm の黒色砂粒を含む。104 は口径 12 cm、器高 3.2 cm。1/4 現存。口唇部内面に浅い沈線を施すが、口唇部は沈線によって外湾せず垂直に立つ。体部の横ヘラ削りは面取り痕が残る。内面のみ赤彩。色調は赤褐色、胎土に白色針状物質を含む。105 は口径 11.5 cm、器高 3.2 cm。1/6 現存。口唇部内面に浅く丸い沈

線を施し、外湾せず垂直に立つ。口縁部に幅 8 mm の横ナデを残し、体部は 3 段の横ヘラ削り。内面のみ赤彩。色調は赤褐色、胎土に白色針状物質を含む。106 は口径 10.8 cm。現存 1/6 口唇部は丸い体部から垂直に立ち、先端は非常に細く丸く整形。内外面には赤彩がない。色調赤褐色。

107 は土師器丸形壺の口縁部。口径 22.4 cm。1/6 現存。口唇部先端は丸く整形。色調黄褐色で、胎土に白色針状物質と砂粒を多量に混合む。

108 はいわゆる盤状環。口径 16 cm。1/6 現存。口唇部内面の沈線は非常に浅く、先端は丸く厚く整形。口唇部外面は幅 1.1 cm ほどの強い押さ、体部は斜め下方にヘラ削りで緩く湾曲。内面に放射状の暗文盤状環の整形法としてみない。色調赤褐色。胎土に白色針状物質と 1 mm 以下の白い砂粒を含む。

第 13 表 滝遺跡第 25 地点ピット 23 の貝層における混貝率と貝類遺体組成

貝層	全体重量 (g)※		貝類重量(g)	混貝率(%)
ピット23	16,330.0		780.4	4.77
貝種別	腹足綱		二枚貝綱	計
	チリメンカワニナ	タニシ	マツカサガイ	
計(g)	159.95	2.45	618.02	780.42

※全体重量は、乾燥後の土・貝・炭化物・焼土・土器・等を全て含んだ重量である。

#### ⑫小結—出土土器について（第 39～41 図）

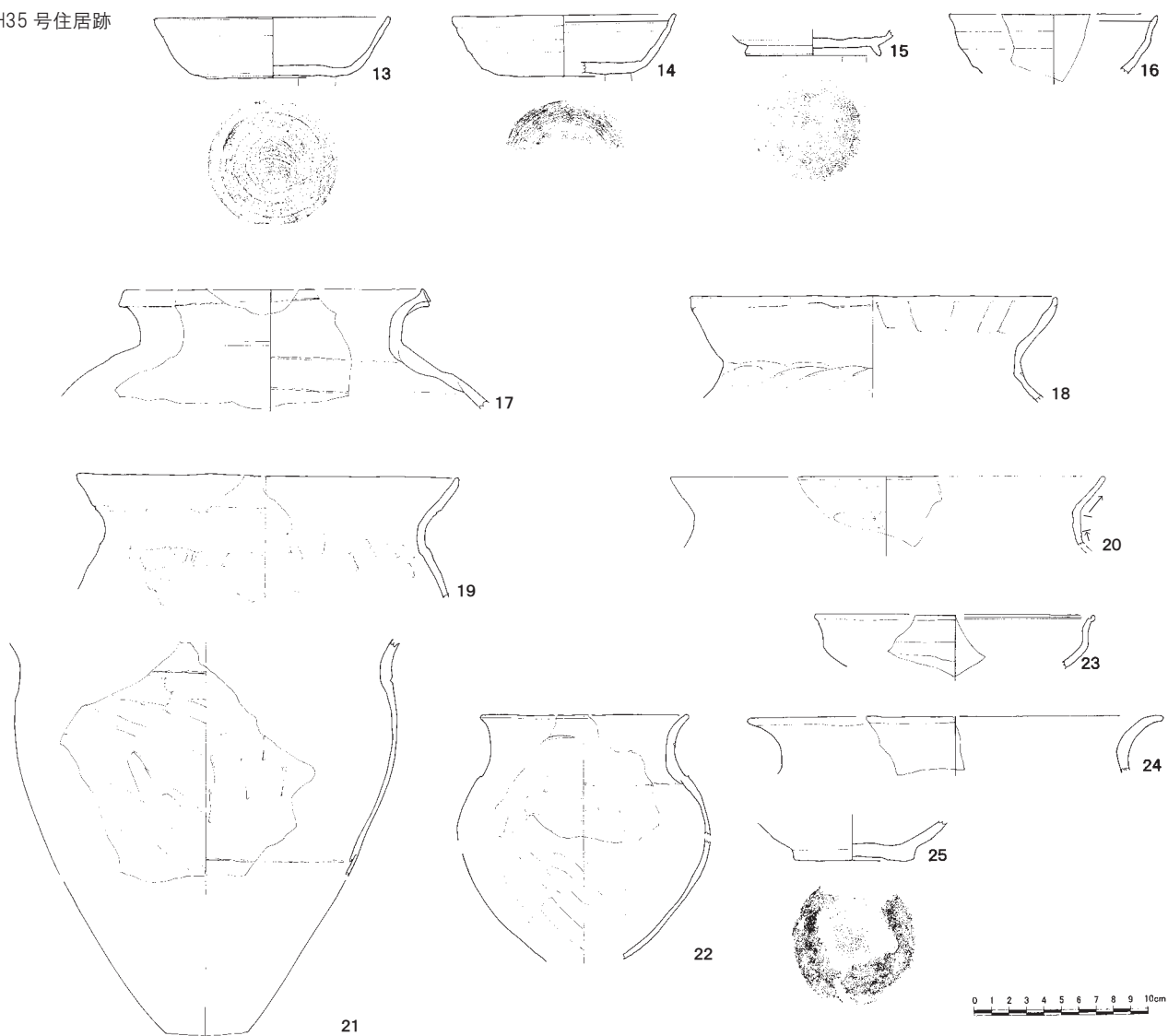
H 34 号住居跡 7 の土師器甔形土器は、7 世紀後半にはなくなり、7 世紀中葉かそれ以前。H35 号住居跡は 8 世紀の 3/4 世紀頃。H36 号住居跡は、H35 号住居跡の須恵器環より口径が大きく、37 の盤状環も伴い、8 世紀の 2/4 世紀か。32 の浅い環は多摩地区の百々草窯、盤状環は八王子の府中の武蔵国官衙遺跡を中心に 8 世紀前半に出土。45 の須恵器甔形土器の突手は、須恵器甔形土器が坂戸市から鶴ヶ島市にまたがる若葉台遺跡などで多量に出土するが、ふじみ野市ではほとんど無く、小破片であるが初出土。上福岡市史の通史編によると、近年、8 世紀後半に掘立柱建物など官衙的な遺構などが発見され、改めて考える必要がある。H 37 号住居跡は、短長甕の底部などから H 34 号住居跡と同時期。土坑 3 は多量の比企型環と盤状環が出土し、8 世紀初頭になろう。遺構外の 96 は須恵器高台付き環、97 の口径 16 cm 以上の環、98 の平坦な浅い環、108 の盤状環も注意されたい。(笹森)



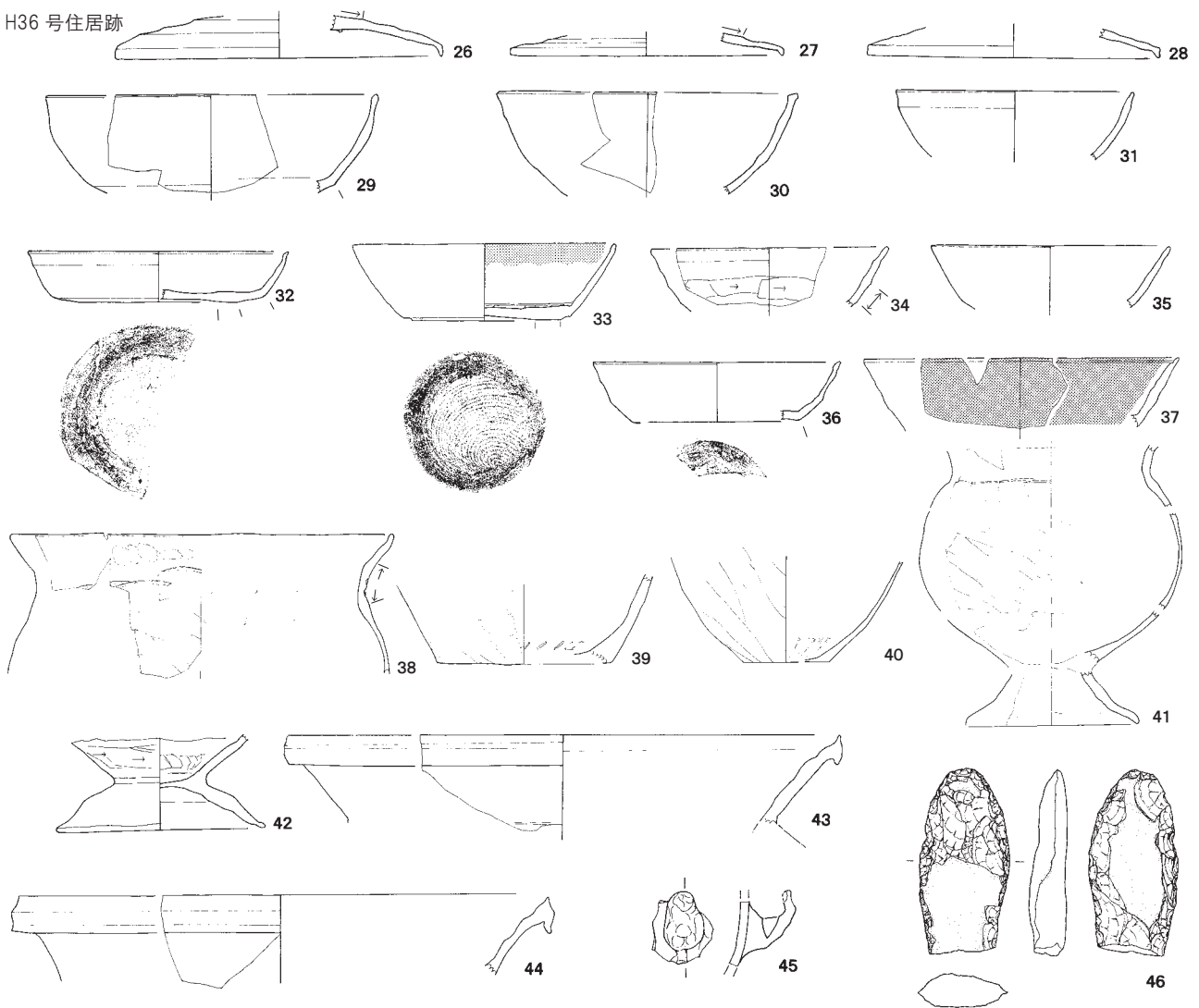
H34 号住居跡



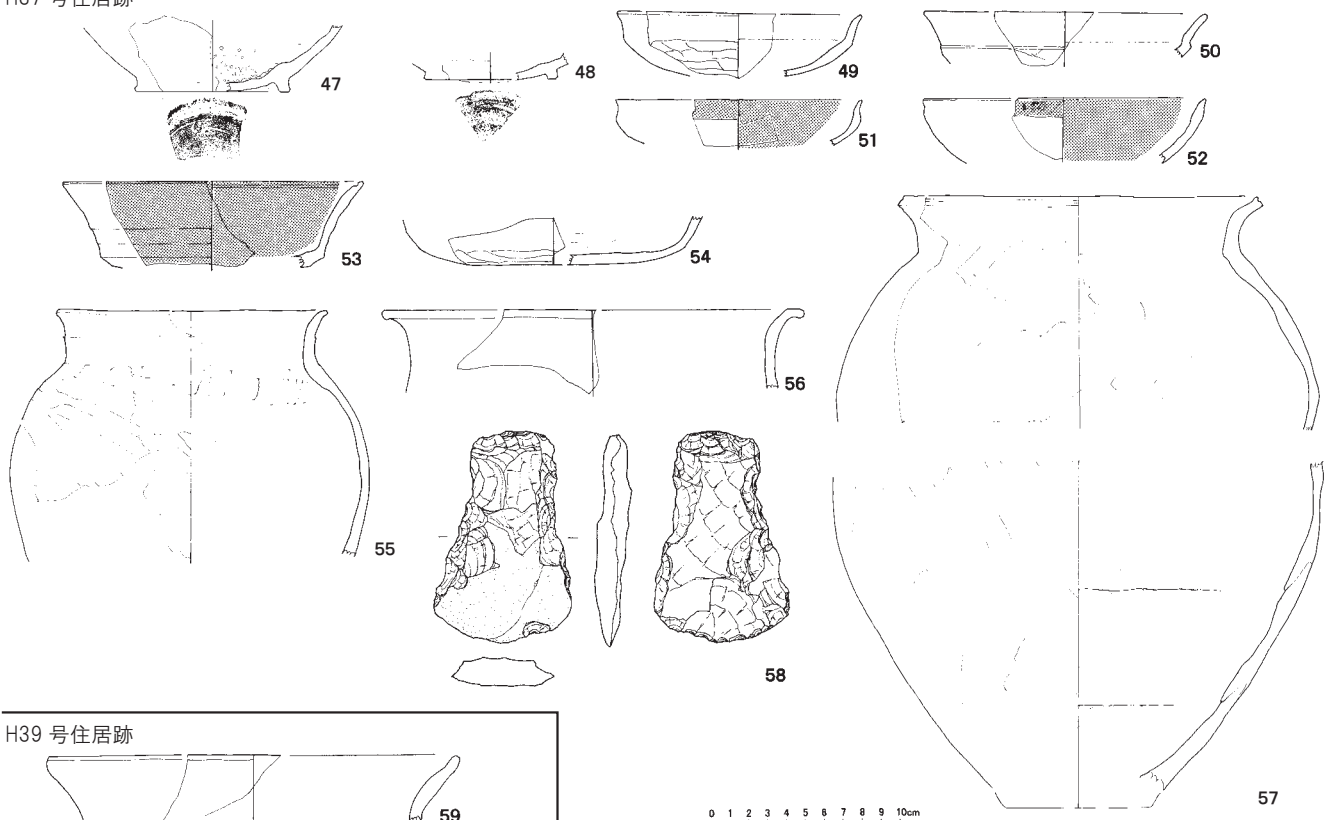
H35 号住居跡



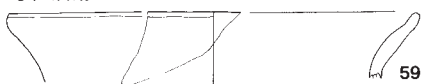
H36 号住居跡



H37 号住居跡



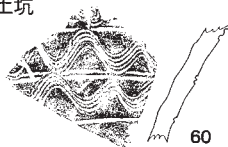
H39 号住居跡



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第 40 図 滝遺跡第 25 地点出土遺物② (1/4)

## 集石土坑



60

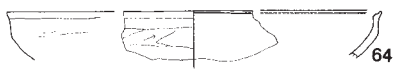


61



62

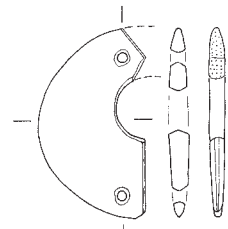
## 土坑 1



64



65



63



## 土坑 3



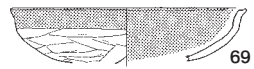
66



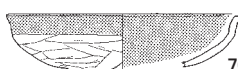
67



68



69



70



71



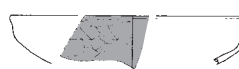
72



73



74



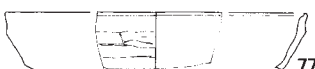
75



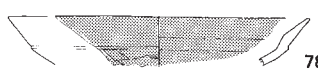
76



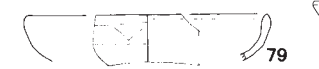
77



78



79

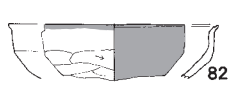


80



81

## 井戸 1



82



83

## 井戸 3



84

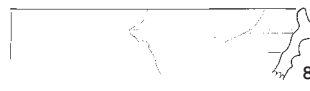


85

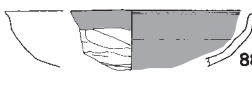
## 井戸 4



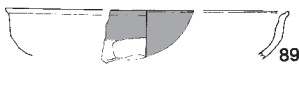
86



87



88



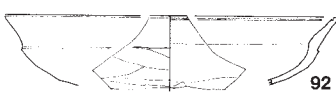
89



90

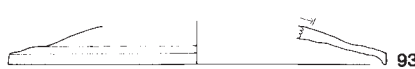


91

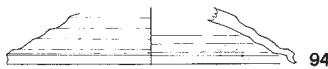


92

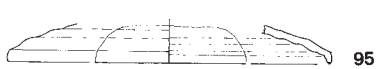
## 遺構外



93



94



95



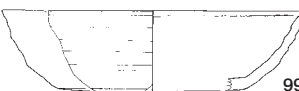
96



97



98



99



100



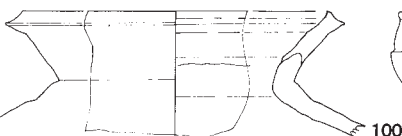
101



102



103



104



105



106



107



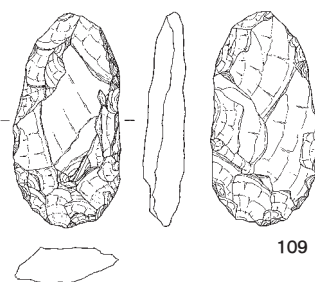
108



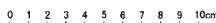
109



110



111



第41図 滝遺跡第25地点出土遺物③ (1/4・1/2)





滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡全景



滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡全景

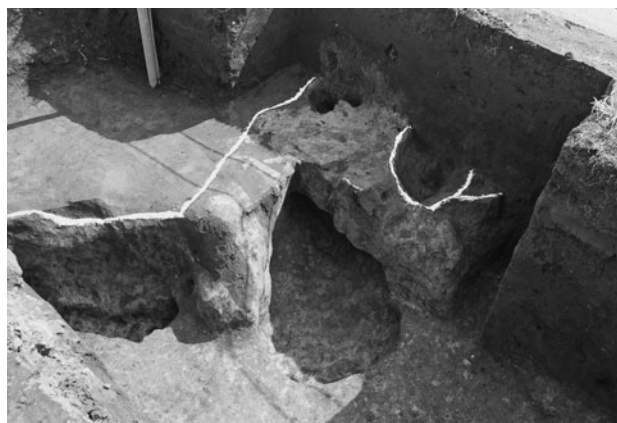


滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡掘方





滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡



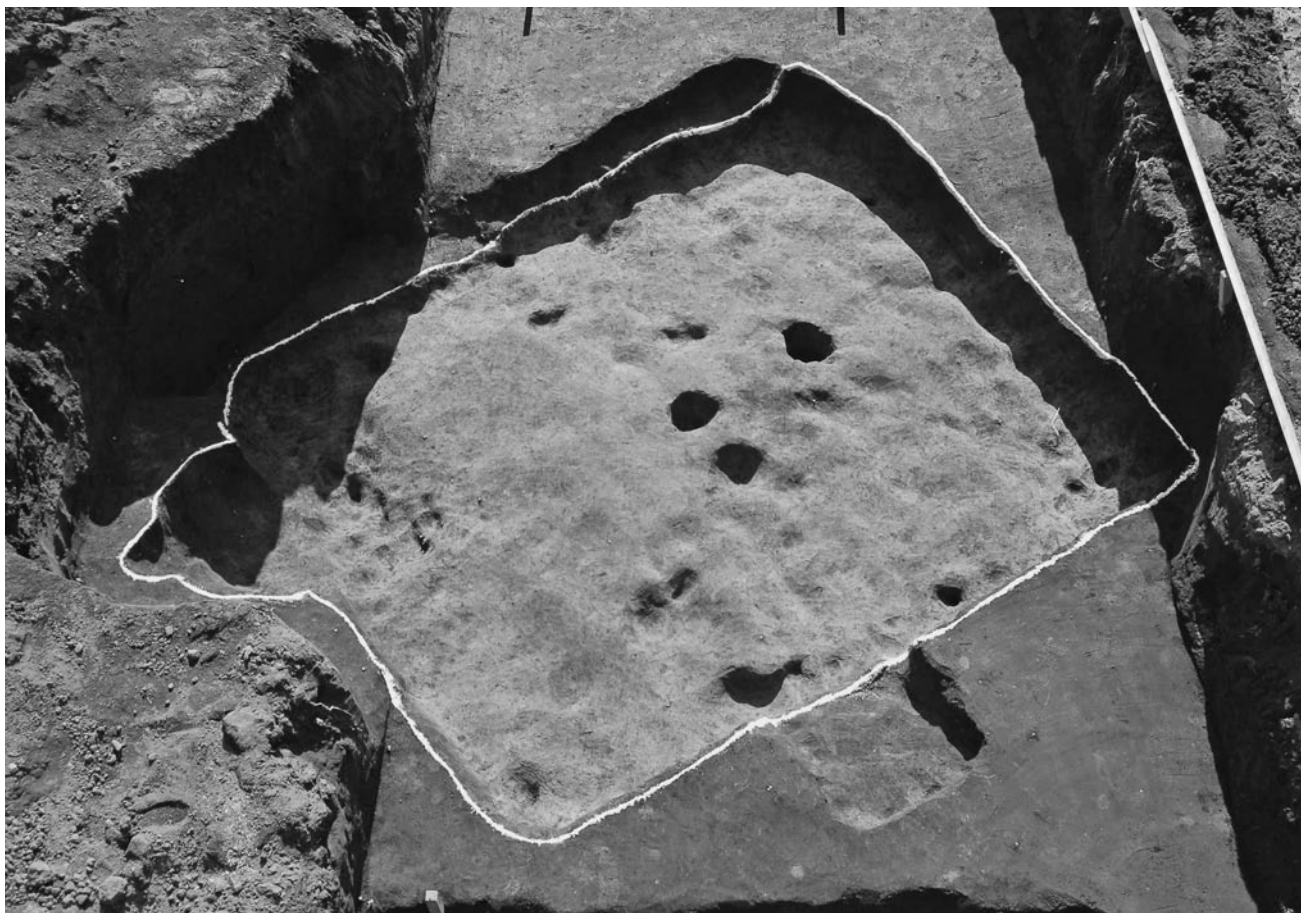
滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡竈



滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡竈土層



滝遺跡第 25 地点 H34 号住居跡竈掘方

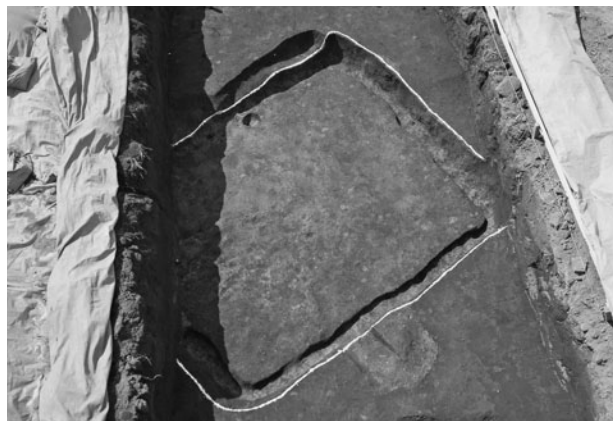


滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡全景





滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡全景



滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡竈 1 遺物出土状況



滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡竈 2



滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡竈 1 遺物出土状況



滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡竈 2 土層



滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡竈 1



滝遺跡第 25 地点 H35 号住居跡竈 2 土層





淹遺跡第 25 地点 H36 号住居跡全景



淹遺跡第 25 地点 H36 号住居跡遺物出土状況



淹遺跡第 25 地点 H36 号住居跡遺物出土状況



淹遺跡第 25 地点 H36 号住居跡遺物出土状況



淹遺跡第 25 地点 H36 号住居跡土層





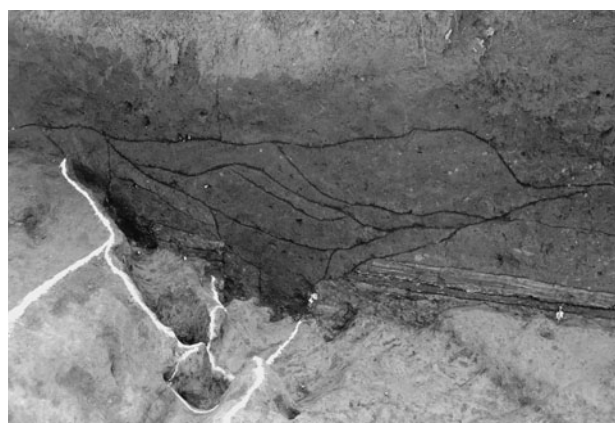
滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡土層



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡土層



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡土層



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡土層



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡竈掘方



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡竈掘方



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡ピット 1



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡ピット 2・3





滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡ピット 5・7



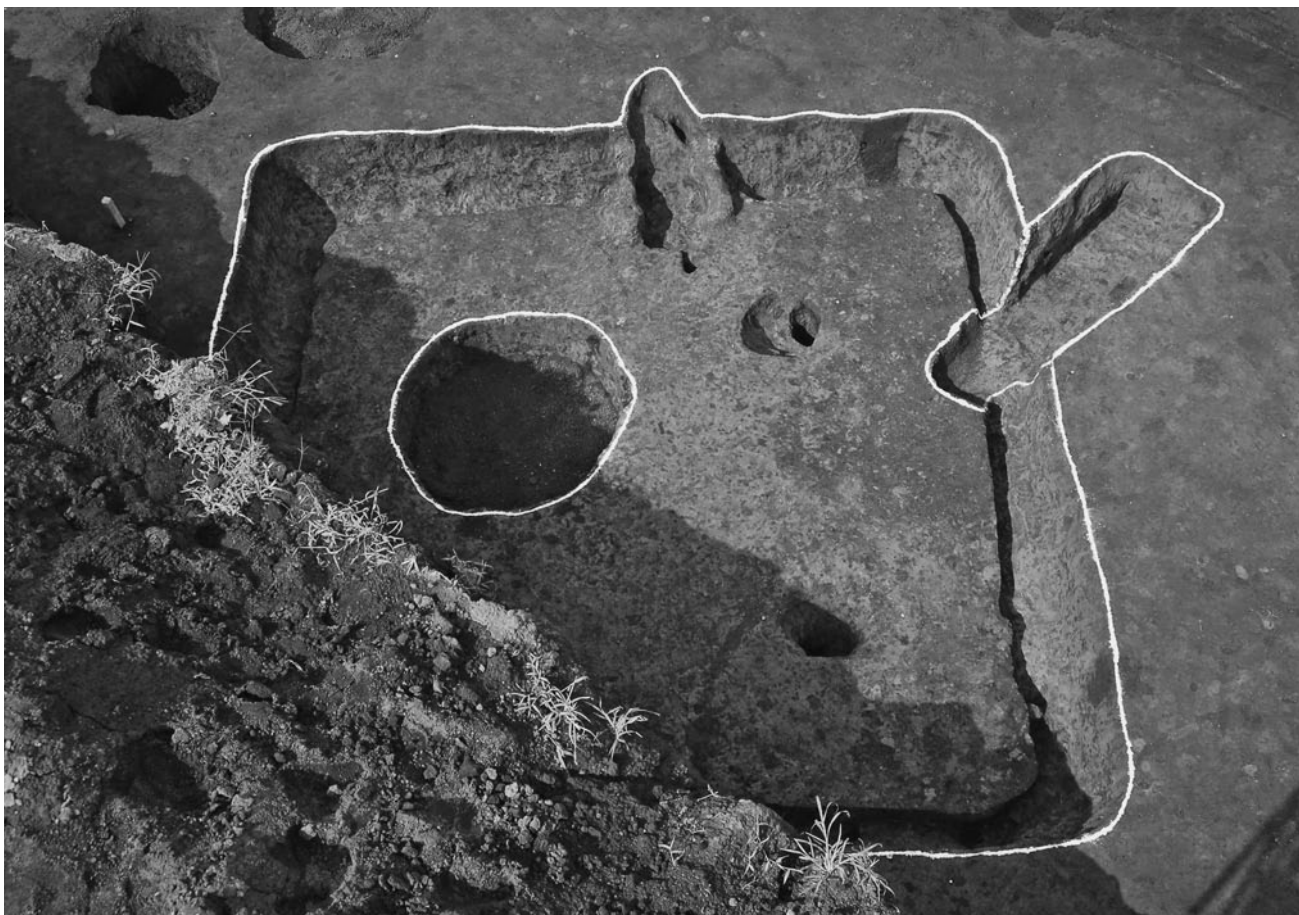
滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡全景



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡掘方



滝遺跡第 25 地点 H36 号住居跡掘方

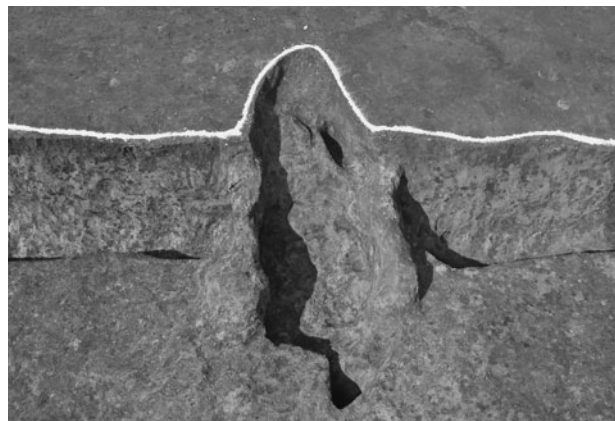


滝遺跡第 25 地点 H37 号住居跡全景





滝遺跡第 25 地点 H37 号住居跡竈遺物出土状況



滝遺跡第 25 地点 H37 号住居跡竈



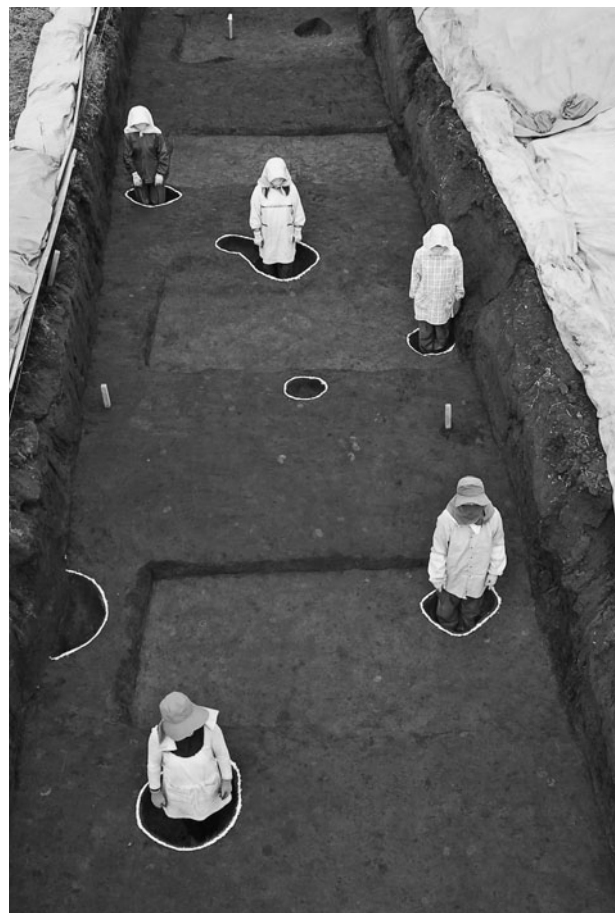
滝遺跡第 25 地点 H37 号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第 25 地点 H37 号住居跡掘方



滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡全景



滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡全景

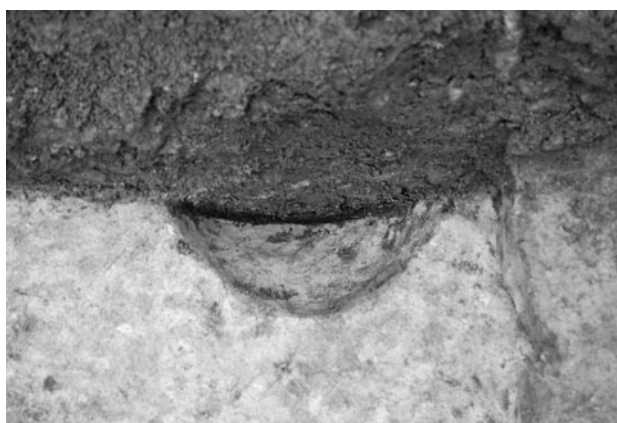




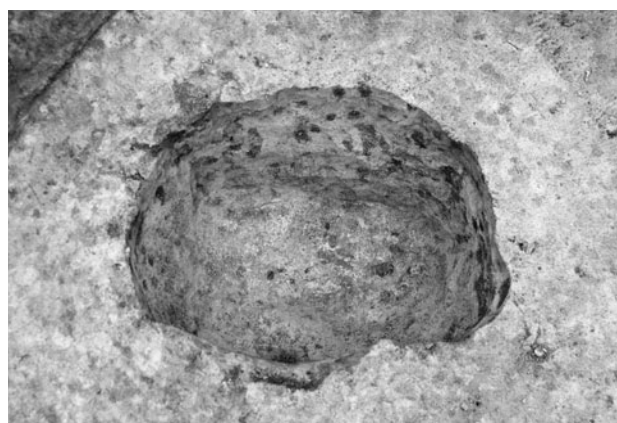
滝遺跡第 25 地点ピット 6・7



滝遺跡第 25 地点ピット 1・2・8～11・20・21



滝遺跡第 25 地点ピット 10



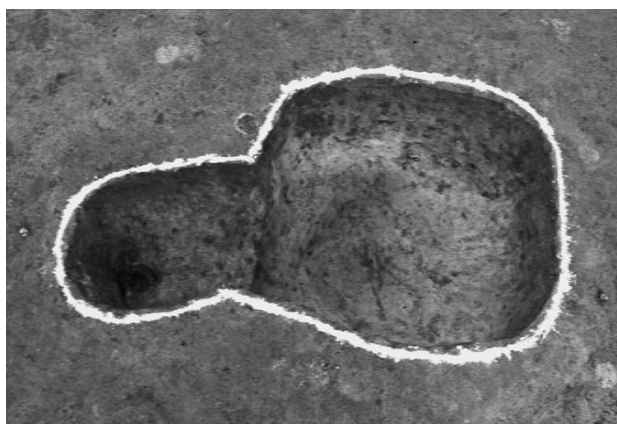
滝遺跡第 25 地点ピット 11



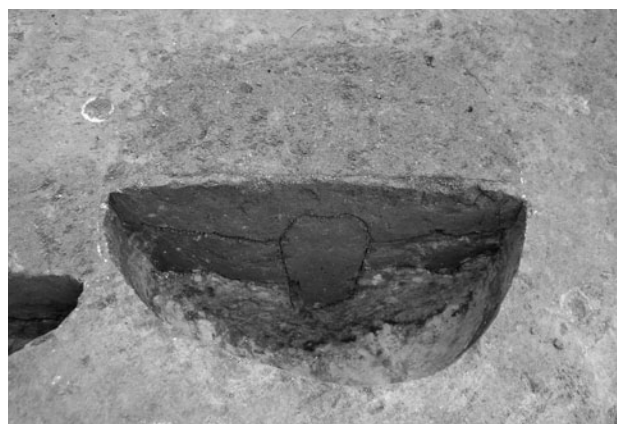
滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡 (ピット 12)



滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡 (ピット 12) 土層



滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡 (ピット 13・14)



滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡 (ピット 14) 土層





滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡 (ピット 15)



滝遺跡第 25 地点ピット 17



滝遺跡第 25 地点ピット 17 土層



滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡 (ピット 18)



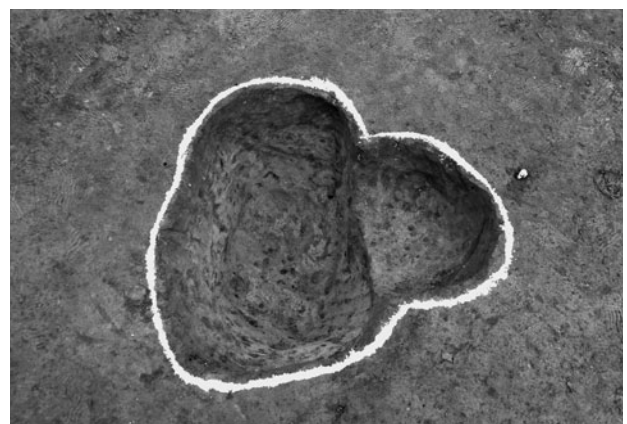
滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡 (ピット 19)



滝遺跡第 25 地点掘立柱建物跡 (ピット 19)



滝遺跡第 25 地点ピット 9・20・21



滝遺跡第 25 地点ピット 8・22





滝遺跡第 25 地点集石土坑 1 礫出土状況



滝遺跡第 25 地点集石土坑 1 完掘



滝遺跡第 25 地点集石土坑 1 遺物出土状況



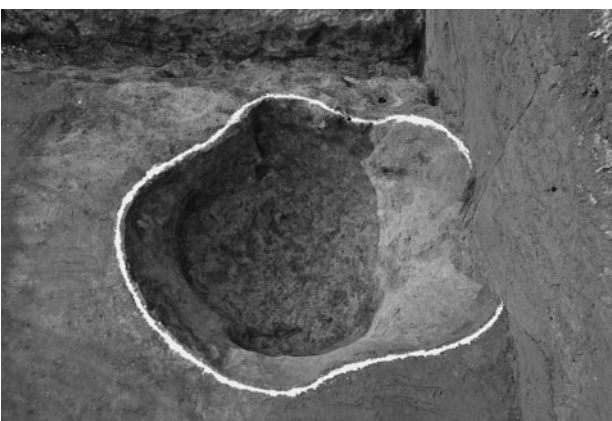
滝遺跡第 25 地点集石土坑 2 礫出土状況



滝遺跡第 25 地点集石土坑 2



滝遺跡第 25 地点土坑 1、井戸 2

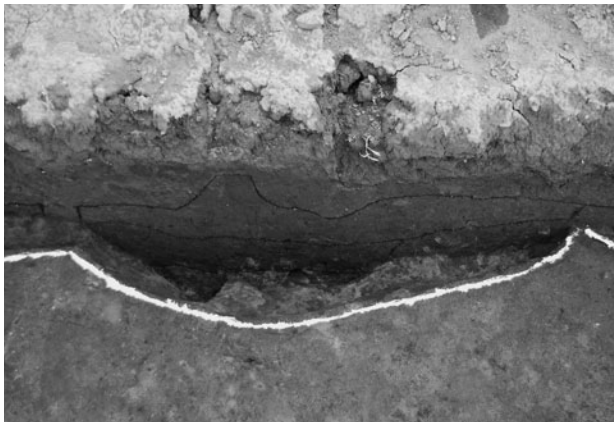


滝遺跡第 25 地点土坑 2



滝遺跡第 25 地点土坑 2 土層

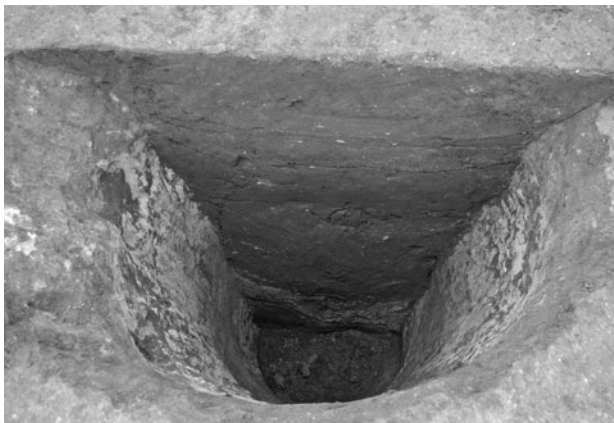




滝遺跡第 25 地点土坑 3 土層



滝遺跡第 25 地点井戸 1



滝遺跡第 25 地点井戸 1 土層



滝遺跡第 25 地点井戸 2 土層



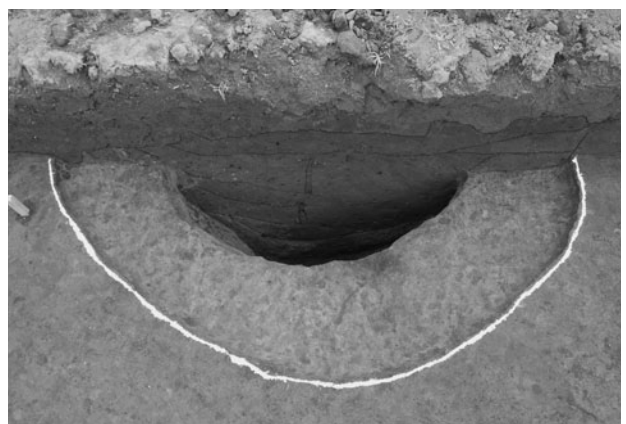
滝遺跡第 25 地点井戸 3



滝遺跡第 25 地点ピット 23(井戸 3 内) 貝層

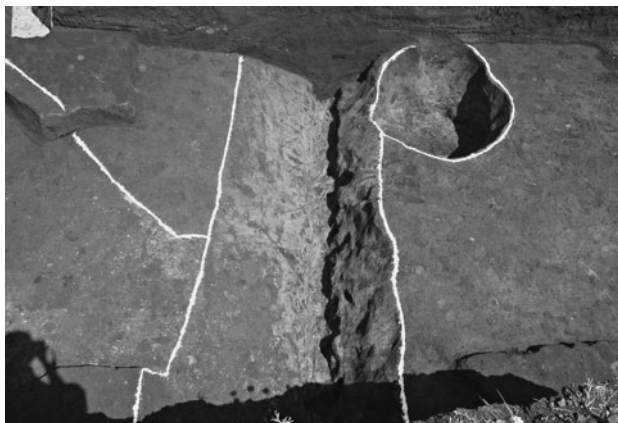


滝遺跡第 25 地点ピット 23(井戸 3 内) 貝層

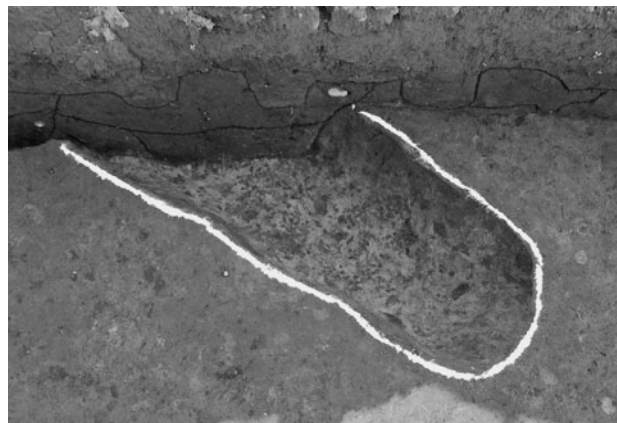


滝遺跡第 25 地点井戸 4 土層

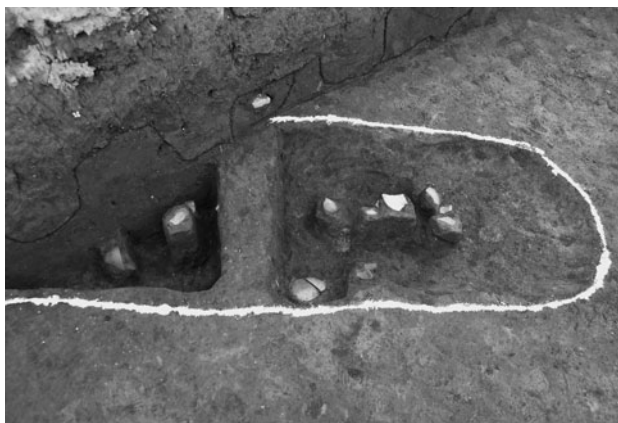




滝遺跡第 25 地点溝 1



滝遺跡第 25 地点溝 2



滝遺跡第 25 地点溝 2 遺物出土状況



滝遺跡第 25 地点全景



滝遺跡第 25 地点全景



滝遺跡第 25 地点全景



滝遺跡第 25 地点調査区遠景

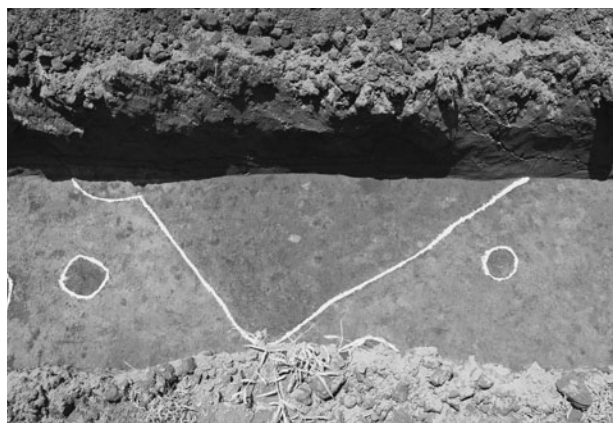


滝遺跡第 25 地点調査区遠景





滝遺跡第 25 地点トレンチ 12



滝遺跡第 25 地点トレンチ 7



滝遺跡第 25 地点トレンチ 9



滝遺跡第 25 地点試掘調査風景



滝遺跡第 25 地点試掘調査風景

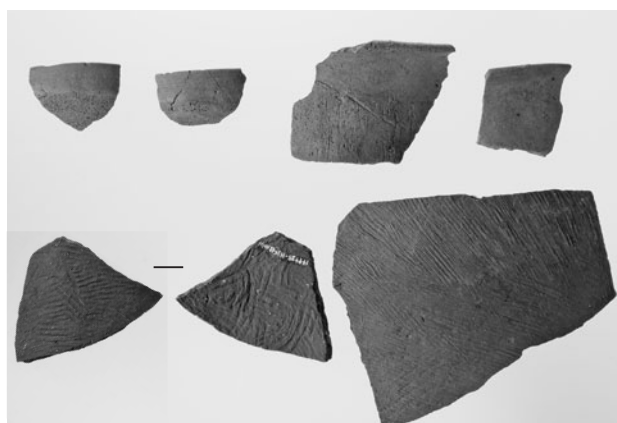


滝遺跡第 25 地点試掘調査風景



滝遺跡第 25 地点試掘調査風景

H34 号住居跡

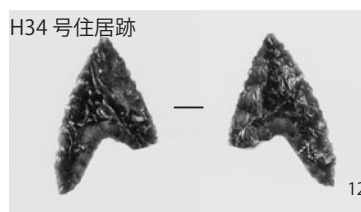


H34 号住居跡出土遺物 No.4 ~ 7・10・11



H35 号住居跡出土遺物 No.17・22

H34 号住居跡



H35 号住居跡



H35 号住居跡出土遺物 No.16・18 ~ 21・23・24

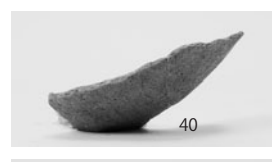
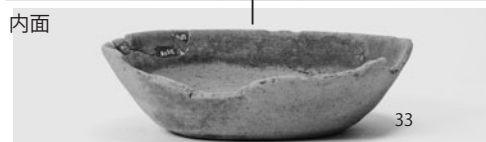
H36 号住居跡



外面

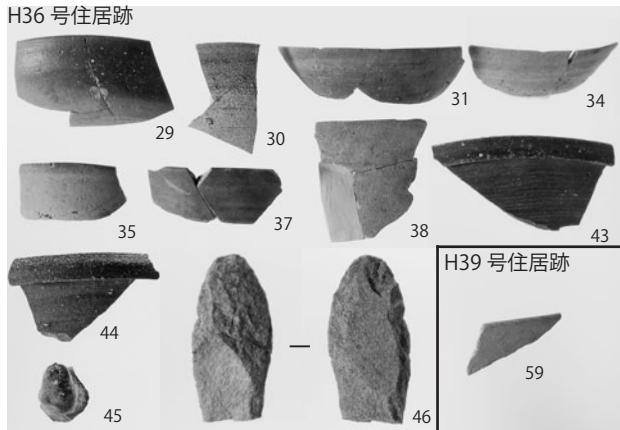


内面

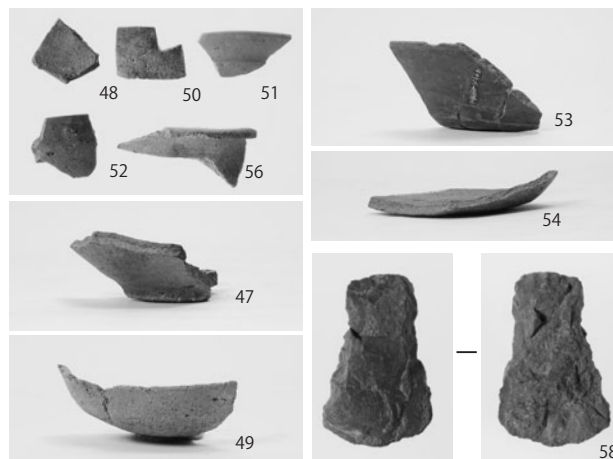




H36 号住居跡



H39 号住居跡



滝遺跡第 25 地点 H36・39 号住居跡出土遺物

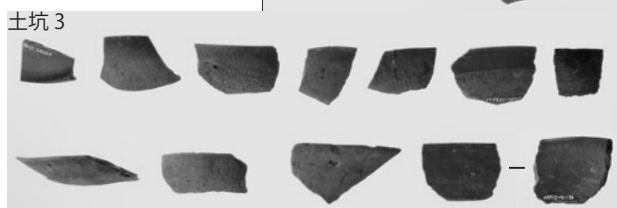
滝遺跡第 25 地点 H37 号住居跡出土遺物

集石土坑

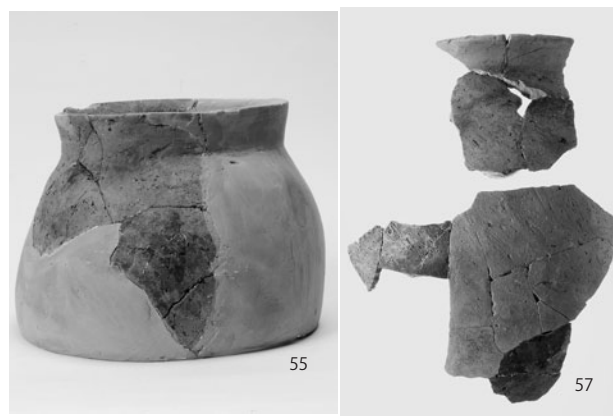


土坑 1

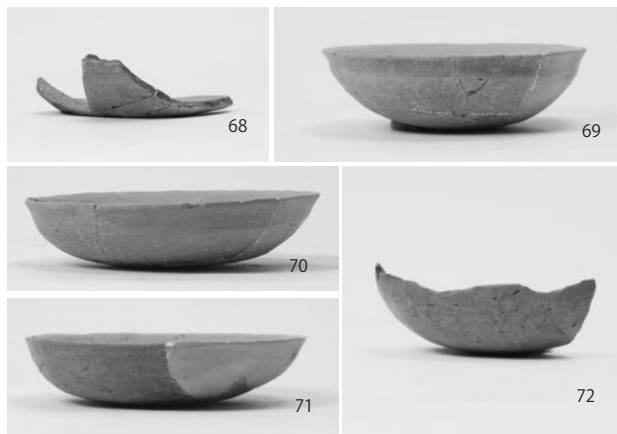
土坑 3



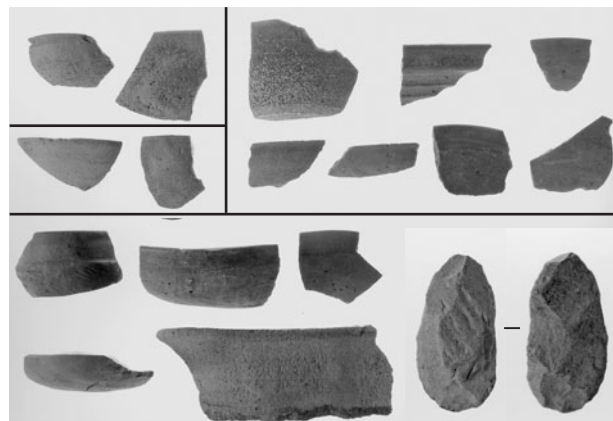
滝遺跡第 25 地点



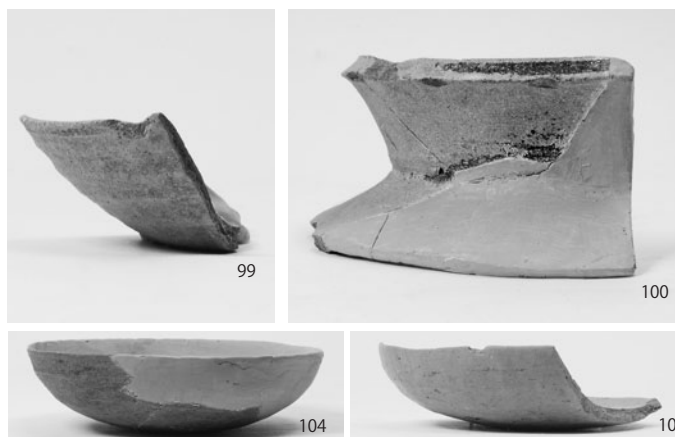
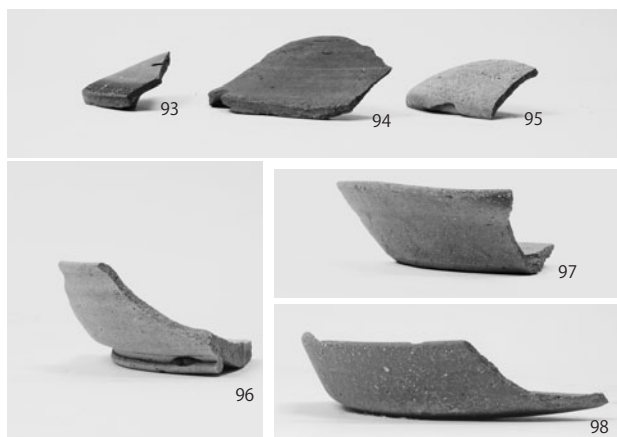
滝遺跡第 25 地点 H37 号住居跡出土遺物



滝遺跡第 25 地点土坑 3 出土遺物



滝遺跡第 25 地点井戸 1・3・4・遺構外出土遺物



滝遺跡第 25 地点遺構外出土遺物